

# 第61回日本児童青年精神医学会総会

児童青年精神医学のこれから  
「生きる」をまもり「育ち」を支えること

会長：田中 究（兵庫県立 ひょうご こころの医療センター 院長）

---

会期（WEB開催期間）

ライブ配信日：2020年10月24日（土）

オンデマンド配信期間：2020年10月24日（土）～11月20日（金）

---

第61回総会に関する問い合わせ先

第61回日本児童青年精神医学会総会 運営事務局

〒650-0034 神戸市中央区京町83 三宮センチュリービル3階（株）プロアクティブ内

TEL：078-954-5160 FAX：078-332-2506

E-mail：jscap61@pac.ne.jp

学会事務局 〒603-8148 京都市北区小山西花池町1-8（株）土倉事務所内

TEL 075-451-4844 FAX 075-441-0436

E-mail jde07707@nifty.com

総会HP：<http://child-adolesc.jp/meeting/61/>

学会HP：<http://child-adolesc.jp/>



# 第61回日本児童青年精神医学会神戸総会

## 児童青年精神医学のこれから 「生きる」をまもり「育ち」を支えること

会 長：田中究（兵庫県立ひょうごこころの医療センター 院長）

期 日：2020年10月24日（土）～ 11月20日（金）（10月24日のみ一部ライブ配信）

会 場：WEB開催

### 会長からのご挨拶

2020年は人類にとって非常に特別な年となりました。新型コロナウイルス感染症はパンデミックとなり、全世界で多くの方が罹患し、亡くなり、日常生活は麻痺、停滞し、子どもたちを含めて多くの人々が不安と恐怖の中にいます。第61回日本児童青年精神医学会総会は感染拡大を防ぎ、参加者、関係者の健康と安全にかんがみ、現地開催を行わずWEB配信での開催と致しました。

本総会のテーマは「児童青年精神医学のこれから-『生きる』をまもり『育ち』を支えること-」と致しました。このテーマは、2020年の開催地であった神戸が阪神淡路大震災から25年を迎えることから連想したものです。この災害は児童青年精神医学にも大きな影響をもたらしました。そのひとつは心的外傷を大きなテーマとして取り扱うようになったことです。自然災害や事故のみならず子ども虐待とその影響などについての評価や治療が求められてきました。そして、「心のケア」「こころの傷つき」への関心が人々に拡がり、トラウマケアや支援の形が整備されていきました。これはまた、ひろく精神科疾患への関心を促し、統合失調症への病名変更、発達障害者支援法や児童虐待防止法などの制定を通して、理解や支援につながっていったように思います。

本年はこのコロナ禍により、学校生活は中断し、自宅生活を求められ、養育者の生活も変化し、子どもの生活は大きく揺さぶられ心身ともに振り回されています。こうした中、子どもや青年への支援について模索することになりますが、支援の基盤となるところは人と人の関係の中の揺るぎないものだと思います。

これからの世界を支えていく子どものいのちとこころの成長、生きていくことをまもり、育ちを支えるために、私たちは何をすべきなのか、これからの児童青年精神医学について考えて参りたいと思います。

本学会は多職種によって構成され、学際的に多職種が参加できるプログラムが行われて参りました。しかし、このたび、WEB開催になって、症例検討や一部のプログラムは断念せざるを得ませんでした。教育講演、シンポジウム、先達との対話、委員会セミナーなどの多く、加えて全ての一般口演やポスター発表はオンデマンドで開催いたします。参加者はそれをご自身の場所でWEBを通して視聴いただくという例年とは全く違った様式での開催になります。

記念講演では、兵庫県でご活躍の劇作家の平田オリザさんにお話しいただく予定となっております。また震災25周年記念企画として阪神淡路大震災、東日本大震災の被災体験をもつ方々のいまをお話しいただく予定にしております。また、小倉清先生、清水将之先生にも先達としてご登壇を頂く予定です。プログラムの詳細につきましては、第61回総会ホームページにて、随時、公開致しますので御参照下さい。

準備には万全を期しておりますが、初めてのことが多くなにかと不手際が多いかと思いますが、これも新しい学会の様式としてご寛恕いただければと存じます。

（第61回日本児童青年精神医学会総会会長 田中究）

第61回総会ホームページ <http://child-adolesc.jp/meeting/61/>

## 参加者へのご案内

本学術総会は、WEB 配信（ライブ配信とオンデマンド配信）を併用する WEB 開催形式での開催といたします。

※ライブ配信とは、インターネットを利用して WEB 上でリアルタイムに講演を視聴していただく形式のことです。

※オンデマンド配信とは、講演動画や発表スライドをご自分のパソコン等で、一定の期間、見たい時に見たいコンテンツをインターネット上で自由に再生し、視聴していただく形式のことです。

※上記ライブ配信とオンデマンド配信をあわせ、インターネット上で実施する形式を WEB 開催と表現しております。

※シンポジウム・委員会セミナー・共催セミナーの一部の講演は、双方向性のライブ配信で予定しています。

※原則すべてのセッションは、オンデマンド配信での視聴を可能といたします。オンデマンド配信は、あらかじめ演者に発表データを作成して頂き、それをサーバーにアップロードするかたちで提出いただきます。

※現地での開催はありませんので、演者を含む参加者は、会場に足を運ぶ必要がありません。

### 1. WEB 開催期間

ライブ配信日：2020 年 10 月 24 日（土）

オンデマンド配信期間：2020 年 10 月 24 日（土）～11 月 20 日（金）

### 2. 参加受付

総会ホームページから受付を行います。

- 1) 申込みフォームに必要事項を入力していただきます。
- 2) 参加費を、【クレジットカード決済】または【銀行振込】のいずれかでお支払いいただきます。インターネット申込みにて、そのまま WEB 上で決済ができます。銀行振込はご請求額をお確かめの上、大会口座にお振込みください。
- 3) お支払いが完了いたしますと、登録アドレス宛てに「参加申込受付完了メール」が自動送信されますので、内容をご確認ください。メールが届かない場合、内容に誤りがあった場合は、運営事務局までご連絡ください。

### 学会参加費

参加費 10,000 円（会員、非会員）

※例年同様、抄録集の印刷・発行はございません。抄録本文は第 61 回総会ホームページからご覧いただけます。

※抄録閲覧用 ID XXXXXXXXXX、パスワード XXXXXXXXXX（2020 年 12 月 31 日まで）

※会員の方は、期限なく当学会ホームページの会員サイトより閲覧することができます。

## 受付期間

2020年8月1日（土）～10月11日（日）

入金期日：10月11日（日）

- \*指定期日（10月11日）までに払い込みのない場合は、申し込みは無効となります。
- \*納入された参加費は、事務局の事情で学会が開催されない場合を除いて、いかなる理由があっても返金には応じかねますので予めご了承ください。
- \*領収書は、受付期間終了後に、メール配信による電子発行を予定しています。

## 3. 参加のしかた

事前参加登録および参加費を納入いただいた方へ、開催の10日前に、WEB開催のページにログインが可能となるIDとパスワードを、メールにてご通知いたします。

総会ホームページに、WEB開催ページへのリンクを設けますので、通知されたIDとパスワードでログインをして視聴していただけます。

- \*参加証明書は、視聴サイト内で発行いたします。視聴サイト内のマイページから出力が可能となります。

再発行はできませんので大切に保管してください。

- \*ライブ配信されたプログラムは、約1週間後からオンデマンド配信いたします。（共催セミナーはライブ配信のみとなります）

## 質疑応答の方法

視聴サイト内の質疑応答欄へのテキスト書き込みを通じた発表者－参加者間のやりとりとなります。

ライブ配信は、リアルタイムで参加者と質疑応答を行っていただけます。

オンデマンド配信での発表者は、開催期間中、書き込まれる参加者からの質問に、返答を書き込んでいただくことができます。

## 視聴にあたってのお願い

視聴サイトにおいて掲載されるすべての内容の著作権は、発表者に帰属いたします。掲載内容（文章、画像、映像、音声など）の一部およびすべてについて、無断で複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを禁止いたします。

## 4. 単位取得

- 1) 本会では、以下のセッションを「日本精神神経学会精神科専門医」「子どものこころ専門医」の単位対象セッションとして申請しております。詳しくは各学会・団体へお問合せください。

事前参加申込みで、単位希望を選択した方には、WEB配信期間終了後に、希望された方の視聴記録を、各申請先事務局へ提出いたします。

○日本精神神経学会精神科専門医（B群）

・教育講演、シンポジウムを1つの受講につき1単位、本学会では上限3単位まで取得可能です。

○子どものこころ専門医

・1つの受講につき1単位が取得可能です。希望者は開催後に申請書を機構事務局にご提出ください。

<単位対象セッション>

セッション名	日本精神神経学会専門医	子どものこころ専門医
シンポジウム1～8	○	○
教育講演1～12	○	○

※教育講演13は対象外です。

2) 公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会について

「臨床心理士」有資格者の資格取得後の教育・研修にかかる研修機会として、本会は承認されております。研修証明書として参加証明書をご提出ください。

<付与ポイント>

・講師参加：4ポイント、発表者：4ポイント、学会参加：2ポイント

## 司会・発表者へのご案内

### 発表の種類

発表には、ライブ配信とオンデマンド配信がございます。

ライブでのご発表方法、および動画の作成方法および提出方法につきましては、個別にご案内いたします。

ライブ配信	インターネットを利用してWEB上でリアルタイムにご発表いただきます。
オンデマンド配信	あらかじめ講演動画や発表スライドご提出いただき、配信期間中、視聴可能といたします。

セッション名	配信内容
会長講演、特別講演、震災25年企画 教育講演、シンポジウム、先達と語る、 委員会セミナー	講演収録動画もしくは 音声付パワーポイントによる動画など
一般口演	講演収録動画もしくは 音声付パワーポイントによる動画など
ポスターセッション	スライドデータ (PDF形式)

WEB配信期間中、アップロードされた発表データはダウンロードできないよう設定しておりますが、「スマホでの撮影」や「PCのスクリーンショット」を防ぐことはできませんので、ご承知おきいただきますようお願いいたします。配信期間終了後は、すべての発表データは削除いたします。

### 質疑応答の方法

視聴サイト内の質疑応答欄へのテキスト書き込みを通じた発表者-参加者間のやりとりとなります。

ライブ配信は、リアルタイムで参加者と質疑応答を行っていただきます。

オンデマンド配信での発表者は、開催期間中、書き込まれる参加者からの質問に、返答を書き込んでいただくことができます。

### 講演動画の取り扱いについて

視聴サイトにおいて掲載されるすべての内容の著作権は、発表者に帰属いたしますので、作成した動画をその後、別の目的（講演会やご本人のホームページ上で公開等）で発表者自身が用いることは問題ありません。その際、総会でのプログラムであることを明記していただきますよう、お願いいたします。

### 利益相反の開示

- 1) 会員・非会員の別を問わず学会発表者（筆頭発表者）は自身のCOI状態を発表スライドの最初（または演題・発表者を紹介するスライドの次）またはポスターの最後に開示してください。
- 2) 学会発表者（筆頭発表者）は利益相反申告書を学会事務局に郵送してください。

## 前文

日本児童青年精神医学会は、1996年8月の世界精神医学会総会において採択された「マドリード宣言」と1999年8月の同総会で承認された倫理ガイドライン特別項目を基本にして、ここに会員の遵守すべき倫理綱領を制定する。

今日、国内外において子ども（児童及び青年）の精神保健をめぐる深刻な問題が多様に出現しており、その背景には家族・学校・地域社会における人間関係や慣習、生活環境、文化の変貌等がある。そのため、児童青年精神科医をはじめとして臨床と実践の仕事に携わる専門家への期待が世界的に高まっている。

さらに、精神科医療、保健、福祉、教育、司法等対人援助分野の専門性に対する社会の意識も大きく変化し、各分野の専門家と子どもとの関係のあり方、治療・援助方法などに変更を求め、研究上また临床上において新たな倫理的基準を求めようになってきた。

医療は、癒しのサイエンスであり、かつアートである。この組み合わせのダイナミクスは、精神的に病み、また障害をもつものを保護し、ケアし、治療することを専門とする精神科医療、とりわけ児童青年期精神科医療において顕著に現れている。ここでは、治療的介入や研究活動が子どもの心身の機能および人権に対して侵襲的なものにならないよう十分な配慮が必要である。

## 1（基本原則）

児童青年期精神科医療は、子どもの精神障害などに対して、最良の治療を提供し、かつ精神的に悩む人達のハビリテーション、精神保健を含めた予防医学的活動の推進、心身の発達支援を目指す児童青年精神医学を中心とした学際的領域である。

会員は、子どもに対して習得した科学的知識と臨床経験並びに倫理的原則に調和した最高の治療・援助を提供するよう努める。

会員は、契約関係にある子どもへの制限が最小限になるような治療的介入を工夫し、必要があれば他分野との連携を積極的に図る。また、会員は保健資源の公正な配置に注目し必要があればその改善のために努力する。

## 2（会員の義務）

会員は、この分野の科学的知識・技術の習得の義務とともに最新の知識を他に伝達する義務をもつ。また、研究に従事する会員には、科学的に未開拓な領域の発見と検証に努力する義務がある。

## 3（国際協力）

会員は、国際的視野と見地の下で臨床と研究を進めるとともに、国内外の専門家と協力して世界の子どもの精神保健の維持と改善に努力する。

## 4（発達する存在への配慮）

会員は、治療や援助の対象としている子どもが急激な発達の変化の途上にあることに十分に留意しなければならない。

子ども期は発達上の個人差が著しく、症状の変化も激しい時期にあるので評価は慎重でなければならないし、薬物の使用などの医療的処置やその他の臨床的対応にも慎重でなければならない。

契約関係にある子どもが年少であったり、障害のために的確な判断ができない場合は、会員は保護者と十分に話し合いを行い、子どもの人間としての尊厳と権利を保護するために法的助言を求める。治療援助を行わなければ、子どもまたは子どもの周囲の人達、あるいは両者の生命と安全を危険に晒すことになるという場合を除いて、会員は子どもまたは保護者、あるいは両者の意思に反した治療はいかなるものも行うべきではない。



## 5 (インフォームド・コンセント)

会員が一人の人を調査・評価する場合、その目的、その結果の用途、その結果によって起こり得る影響を、調査・評価される当事者および／または保護者に告知・説明し、理解・了承を得る努力をする義務がある。会員が第三者的状况にかかわっているような場合、これは特に重要である。会員は、諸種の事情で契約関係にある子どものインフォームド・コンセントを得られない場合であっても、アセントを得る努力はするべきである。

治療・援助過程において、子どもとその保護者はまさしくパートナーとして認められるべきである。治療・援助者と子どもおよび保護者との関係は、子どもおよび保護者が十分な情報を得た上で自由に自己決定ができるように、相互信頼と尊敬に基づかなければならない。また、会員は、子どもとその保護者が自身の個人的価値と考えに基づいて合理的な決定ができるように、必要な情報を提供していかなければならない。

## 6 (守秘義務)

治療・援助関係の中で得られた情報は守秘されるべきであり、その子どもの精神保健の改善にのみ用いられるべきで、それ以外に使用してはならない。

会員は個人的理由で、また経済的あるいは学問的な利益のために、契約関係にある子どもに関する情報を本人や家族の了解なしに使用することも禁じられる。

守秘義務の不履行は、秘密を保持することによってその子どもや保護者または第三者が重大な身体的・精神的な危害を被る可能性が高い時にのみ妥当とみなされる。しかし、こうした状況の時も、会員はできるだけ子どもがとるべき行動について、先ず子どもまたはその保護者に助言すべきである。

## 7 (職責上の人権侵害行為 (パワー・ハラスメント) の禁止)

会員は、いかなる理由があっても職責上、子どもや保護者に対してセクシャル・ハラスメントなどのパワー・ハラスメント行為をしてはならない。また、会員はパワー・ハラスメント行為と誤解されないように自己の行為に対して日常的に配慮する必要がある。

## 8 (研究上の留意事項)

子どもを対象とする研究を行う場合、会員は研究の計画と実施に関する国内または国際的ルールに従う。ここでいう研究とは臨床研究、疫学研究、社会的研究、生物学的基礎研究などを含む。

子どもは、心身ともに急激な発達の途上にあるため、研究対象とする場合には彼らの精神的・身体的安全性についてはもちろんのこと、その自律性の保護には特別な注意を払う必要がある。

会員が研究を行う場合、原則としてその研究計画書を各施設の倫理委員会に提出し、その審議と承認を得てから行わなければならない。

この倫理綱領の内容が、施設における倫理委員会の規定と矛盾する場合には、より患者の利益を優先した判断を下すべきである。

施設内に倫理委員会が設置されていない場合においても、何らかの形で倫理的検討を行う必要があり、その経緯を記録に残す必要がある。

## 付記

- 1 この学会基本理念と倫理綱領は、国内外における研究と臨床の進展、ならびに関連する領域の規範の変化に応じて、再検討される。
- 2 臨床研究上遵守すべき規範については、日本精神神経学会が承認(1997年5月30日)した「臨床研究における倫理綱領」を当面準用する。
- 3 一般社団法人への変更に伴って平成25年9月8日に改正。

# 第61回日本児童青年精神医学会総会

2020年10月24日(土)【ライブ配信日】

	A会場	B会場	C会場
8:00			
8:30			
9:00			
9:30			
10:00			
10:30			
11:00			
11:30	11:10～12:00 開会式 会員集会/学会賞授賞式		
12:00		12:00～13:00 共催セミナー1 共催：ヤンセンファーマ(株)	12:00～13:00 共催セミナー2 共催：塩野義製薬(株)/武田薬品工業(株)
12:30	12:30～13:30 共催セミナー3 共催：大塚製薬(株)		
13:00		13:10～15:00 シンポジウム1 「最新の自閉症学」 司会：尾崎 紀夫 飯田 順三 演者：内匠 透 牧之段 学 山末 英典 尾崎 紀夫	13:10～15:00 教育に関する委員会セミナー 「不登校児童・生徒への支援を考える」 司会：吉田 弘和 野邑 健二 演者：廣石 孝 牛島 洋景 細川 愛美 堀 英太郎
13:30			
14:00			
14:30			
15:00		15:10～17:00 シンポジウム2 「強度行動障害を伴う知的・発達障害児(者)の薬物療法と関係機関・家庭との連携」 司会：會田 千重 演者：吉川 徹 山下 健 木下 直俊 指定発言者：市川 宏伸	15:10～17:00 福祉に関する委員会セミナー 「虐待を受けた子どもへの治療の取り組みと課題」 司会：金井 剛 演者：高田 治 内海 新佑 中西 大介
15:30			
16:00			
16:30			
17:00			
17:30			
18:00			

## 会長講演

児童青年精神医学のこれから ―「生きる」をまもり「育ち」を支えること―

司会：松本 英夫（東海大学医学部精神科学、日本児童青年精神医学会 代表理事）

演者：田中 究（兵庫県立 ひょうご こころの医療センター）

## 特別講演

特別講演 1

ゲーム障害を考える

司会：曾良 一郎（神戸大学大学院医学研究科精神医学分野）

演者：樋口 進（独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター）

特別講演 2

精神保健医療福祉の動向と児童・思春期の精神医療

演者：児島 正樹（厚生労働省 社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課 精神医療専門官）

## 阪神・淡路大震災 25 年 特別企画

子どもの「生きる」をまもり「育ち」を支えること

演者：平田オリザ（劇作家・演出家）

震災の子どもたち

## 先達と語る

1. 若き臨床家に告ぐ

小倉 清（クリニックおぐら） × 川畑 友二（クリニック川畑）

2. 児童精神科医療の昨日・今日、そして

清水 將之（関西国際大学） × 宮本 聡（南紀医療福祉センター 精神科）

## 教育講演

教育講演 1

コロナ禍における子どもの心のケア：次なる波への備え

演者：高橋 秀俊（高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学）

教育講演 2

児童青年期にみられる精神障害の ICD-11 における分類

演者：松本ちひろ（日本精神神経学会）

教育講演 3

ためこみ症の臨床～ASD・ADHD との関連を中心に～

演者：中尾 智博（九州大学大学院医学研究院 精神病態医学）

#### 教育講演 4

子どもの行動観察～ADOS2を通して学んだこと～

演者：廣瀬 公人（甲子園こども相談室）

#### 教育講演 5

T式ひらがな音読支援による発達性読み書き障害の診断と指導

演者：小枝 達也（国立成育医療研究センター）

#### 教育講演 6

小児期ストレスの心理生物学的影響

演者：井上 猛（東京医科大学精神医学分野）

#### 教育講演 7

トラウマインフォームドケア：子ども・支援者・組織の再トラウマを防ぐ公衆衛生のアプローチ

演者：野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科）

#### 教育講演 8

思春期の性被害—予防と介入

Sexual Violence in Adolescence - a healing centered approach

演者：Elizabeth Miller（Children's Hospital of Pittsburgh）

#### 教育講演 9

学校・社会と子どものジェンダー～性別違和・性別不合の児童生徒との関わりを通して考えていること～

演者：松本 洋輔（岡山大学病院ジェンダーセンター）

#### 教育講演 10

青年期臨床における、広い意味での精神療法

演者：青木 省三（慈圭会精神医学研究所）

#### 教育講演 11

児童精神科医に経験してほしいこと

演者：新井 卓（神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科）

#### 教育講演 12

離婚後の親子面会交流の課題～子どもへの影響、法的課題について～

司会：杉村 共英（医療社団法人希志会発達心療クリニック）

演者：安保 千秋（弁護士法人都大路法律事務所）

山本 朗（東大阪市立障害児者支援センター）

#### 教育講演 13

こころの絵本プロジェクト～一般高校生への心理教育の実践～

演者：鏡味 秀彦（特定非営利活動法人すまみらい）

## 大会企画シンポジウム

### シンポジウム1 **ライブ配信**

#### 最新の自閉症学

司会：尾崎 紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野）

飯田 順三（奈良県立医科大学看護学科人間発達学）

演者：内匠 透（神戸大学大学院医学研究科医学部生理学・細胞生物学講座）

「自閉スペクトラム症の病態解明を目指して」

牧之段 学（奈良県立医科大学医学部精神医学講座）

「自閉スペクトラム症への早期介入効果を支持する動物モデル研究」

山末 英典（浜松医科大学医学部精神医学講座）

「社会的コミュニケーションの障害の客観定量評価：自閉スペクトラム症中核症状に対する初の治療薬を開発するために」

尾崎 紀夫（名古屋大学大学院医学系研究科精神医学・親と子どもの心療学分野）

「ゲノム医療の成果を精神科医療に活かし、当事者・家族に還元するために」

### シンポジウム2 **ライブ配信**

#### 強度行動障害を伴う知的・発達障害児（者）の薬物療法と関係機関・家庭との連携

司会：會田 千重（国立病院機構 肥前精神医療センター）

演者：吉川 徹（愛知県医療療育総合センター）

「行動障害を伴う知的・発達障害児（者）の薬物療法」

會田 千重（国立病院機構 肥前精神医療センター）

「強度行動障害治療病棟での薬物療法と非薬物療法」

山下 健（国立病院機構 榊原病院）

「強度行動障害を伴う知的・発達障害児者の薬物療法を多職種チームで考える」

木下 直俊（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）

「患者さん中心の薬物療法」

指定発言者：市川 宏伸（日本発達障害ネットワーク）

「強度行動障害児者と薬物治療の意味」

### シンポジウム3

#### 児童青年期における強迫症～その臨床像と治療、特に認知行動療法を中心に

司会：中川 彰子（千葉大学子どものこころの発達教育研究センター）

松永 寿人（兵庫医科大学精神科神経科学）

演者：松永 寿人（兵庫医科大学精神科神経科学）

金生由紀子（東京大学大学院医学系研究科こころの発達医学分野）

久能 勝（千葉大学子どものこころの発達教育研究センター）

齊藤 卓弥（北海道大学大学院医学研究科 児童思春期精神医学講座）

### シンポジウム4

#### 摂食障害の早期発見と早期対応

司会：高宮 静男（たかみやこころのクリニック、西神戸医療センター）

磯部 昌憲（京都大学大学院医学研究科脳病態生理学講座）

演者：岡田 あゆみ（岡山大学院医歯薬学総合研究所）

「小児科医の立場から考える」

川添 文子（神戸市立西神戸医療センター精神神経科）

「総合病院で働く心理職の立場から～小児の入院事例を通して～」

中里 道子（国際医療福祉大学成田病院 精神科）

「児童思春期摂食障害治療の多職種チーム連携に向けて」

服部 紀代（立命館大学大学院人間科学研究科博士後期課程）

「養護教諭・学校関係者のためのゲートキーパー研修会の効果」

## シンポジウム5

### 子どものトラウマケア～組織としてどう取り組むか？～

司会：来住 由樹（岡山県精神科医療センター）

亀岡 智美（兵庫県こころのケアセンター）

演者：島 ゆみ（吹田子ども家庭センター）

「児童相談所における子どものトラウマケア：組織としての多角的取り組み」

花房 昌美（大阪精神医療センター）、野坂 祐子（大阪大学大学院人間科学研究科）

「子どものトラウマの適切な評価と対応：全国児童相談所調査の結果から」

古田 大地（岡山県精神科医療センター）

「精神科医療機関における子どものトラウマケア：組織の内外での連携と協働」

Elizabeth Miller（Children's Hospital of Pittsburgh）

「Cross-sector Collaboration to promote Healing Centered Engagement」

## シンポジウム6

### 大人が意外と知らないネットやゲームのこと

司会：森野百合子（小児総合医療センター児童思春期科）

木村 一優（医療法人社団新新会多摩あおば病院）

演者：和田 慶太（兵庫県立ひょうごこころの医療センター）

「ゲーマーによる日々の診療」

吉川 徹（愛知県医療療育総合センター中央病院）

「子どものICTリテラシー向上のために大人ができること」

井上 雅彦（鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座）

「発達障害のある子どものインターネットやゲームへの依存に対する理解と対応」

関 正樹（大湫病院）

「ゲームの中で子どもたちは何をしているんだろう？」

## シンポジウム7

### 社会的養育と児童相談所

司会：金井 剛（三重県立子ども心身発達医療センター）

演者：森 茂起（日本ソーシャルペダゴジー学会 会長）

佐野 洋子（明石市福祉局）

庄 紀子（神奈川県立こども医療センター児童思春期精神科）

## シンポジウム8

### 児童青年領域におけるレジストリの構築

司 会：岡田 俊（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 知的・発達障害研究部）

演 者：宇佐美政英（国立国際医療研究センター国府台病院 子どものこころ総合診療センター・児童精神科）

辻井 農亜（近畿大学医学部精神神経科学教室）

三上 克央（東海大学医学部医学科総合診療学系精神科学）

八木 淳子（岩手医科大学附属病院児童精神科）

指定発言：岡田 俊（国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 知的・発達障害研究部）

## 委員会セミナー

### 教育に関する委員会セミナー 「不登校児童・生徒への支援を考える」**ライブ配信**

司会：吉田 弘和（宮城県立精神医療センター）、野邑 健二（名古屋大学心の発達支援研究実践センター）  
演者：廣石 孝（文部科学省児童生徒課生徒指導室）

「行政の立場から」

牛島 洋景（うじまこころの診療所）

「児童精神科医療の立場から」

細川 愛美（兵庫大学看護学部）

「学校の立場から」

堀 英太郎（愛知県スクールカウンセラー）

「スクールカウンセラーの立場から」

### 福祉に関する委員会セミナー 「虐待を受けた子どもへの治療の取り組みと課題」**ライブ配信**

司会：金井 剛（三重県立子ども心身発達医療センター）

演者：高田 治（川崎こども心理ケアセンターかなで）

内海 新佑（川和児童ホーム）

中西 大介（三重県立子ども心身発達医療センター）

### 子どもの人権と法に関する委員会パネルディスカッション 「年長非行少年の処遇の現状と課題」

司会：富田 拓（北海道家庭学校）

安保 千秋（弁護士法人都大路法律事務所）

演者：金子 陽子（元・愛光女子学園園長）

定本ゆきこ（京都少年鑑別所）

木下 裕一（やまびこ法律事務所）

指定討論：宮口 幸治（立命館大学）

### 倫理委員会セミナー 「研究倫理と当事者性」

司会：太田順一郎（岡山市こころの健康センター）

田中 哲（子どもと家族のメンタルクリニックやまねこ）

演者：熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）

「当事者研究とは何か」

糸川 昌成（東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野）

「当事者性と研究について」

夏莉 郁子（やきつべの径診療所）

「当事者の守秘について」

太田順一郎（岡山市こころの健康センター）

「当事者研究に研究倫理をあてはめることについて」

### 心理職に関する委員会セミナー 「児童青年期のこころに関わる心理職

～その現状とこれから求められる専門性とは～」

司会：佐藤 至子（心理職に関する委員会）

演者：神谷 俊介（北里大学病院精神科）

川瀬 正裕（金城大学）

指定討論：小平 雅基（愛育クリニック）

森岡由起子（聖学院大学）

### 生涯教育に関する委員会セミナー 「第10回臨床研究教育セミナー」

司会：佐藤 晋治（大分大学教育学研究科教職開発専攻）

木村 一優（医療法人社団新新会 多摩あおば病院）

演者：池之上辰義（京都大学大学院医学研究科人間健康科学専攻）

伊吹 友秀（東京理科大学理工学部教養）

国際学会連絡・国際交流基金運営委員会セミナー

「アジア諸国のゲーム障害とインターネット依存」

Gaming disorder and Internet addiction in Asian countries

司会 (Chairperson) :

Kazuhiko Nakamura (中村 和彦)

Department of Neuropsychiatry, Hirosaki University Graduate School of Medicine

(弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座)

解説 (Commentator) 演題 1, 2 : 齊藤、演題 3, 4 : 金生

Takuya Saito (齊藤 卓弥)

Department of Child and Adolescent Psychiatry, Graduate School of Medicine, Hokkaido University

(北海道大学大学院医学研究院 児童思春期精神医学分野)

Yukiko Kano (金生由紀子)

Department of Child Neuropsychiatry, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo

(東京大学大学院医学系研究科 こころの発達医学分野)

総括 (Discussant) :

Yoshiro Ono (小野 善郎)

Wakayama Mental Health and Welfare Center (和歌山県精神保健福祉センター)

演者 (Speakers) :

1. “日本のネット依存・ゲーム障害 (Internet addiction and Gaming disorder in Japan)”

館農 勝 (Masaru Tateno)

ときわ病院 (Tokiwa Hospital)

2. “Prevalence of Internet Gaming Disorder in South Korea”

Jaehoon KIM

Department of Psychiatry, Hokkaido University Hospital

3. “Parental Self-Efficacy in Managing Internet and Smartphone Use Among Parents of Adolescents with Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder”

Cheng-Fang Yen

Department of Psychiatry, Kaohsiung Medical University Hospital, and School of Medicine,

Kaohsiung Medical University, Kaohsiung, Taiwan

4. “Internet addiction and Gaming disorders in Singapore.”

Melvyn Zhang

Consultant Psychiatrist, NAMS (National Addictions Management Service), Institute of

Mental Health, Singapore

**共催セミナー**

共催セミナー1 共催：ヤンセンファーマ (株) **ライブ配信**

「ADHDの適正診断について」

司会：齊藤 卓弥 (北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門)

演者：小坂 浩隆 (福井大学医学部病態制御医学講座 精神医学)

共催セミナー2 共催：塩野義製薬 (株) / 武田薬品 (株) **ライブ配信**

「ライフスパン・ディスオーダーとしてのADHD」

司会：高宮 静男 (たかみやこころのクリニック、西神戸医療センター)

演者：井上 祐紀 (東京慈恵会医科大学精神医学講座)

共催セミナー3 共催：大塚製薬 (株) **ライブ配信**

「自閉症スペクトラム症の対人認知と二次障害のなりたち」

司会：本田 秀夫 (信州大学医学部 子どものこころの発達医学教室 信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部)

演者：岡田 俊 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部)

共催セミナー4 共催：ノーベルファーマ (株)

「小児期の睡眠問題とその対策～神経発達症に伴う睡眠-覚醒障害を中心に～」

司会：岡田 俊 (国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 知的・発達障害研究部)

演者：三島 和夫 (秋田大学大学院医学系研究科 精神科学講座)



## 一般演題（口頭発表）

### PDD／自閉スペクトラム症（ASD）

#### O-01 コロナウィルス感染流行期における遠隔操作ロボット・VRを利用した自閉症支援

○石川 大貴<sup>1・2・3</sup>、熊崎 博一<sup>3</sup>、吉川 雄一郎<sup>4</sup>、松本 吉央<sup>6</sup>、宮尾 益知<sup>2・5</sup>

1. 特定非営利活動法人翔和学園、2. ギフテッド研究所、
3. 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所児童予防精神医学研究部児童青年期精神保健研究室、
4. 大阪大学大学院基礎工学研究科、5. どんぐり発達クリニック、
6. 産業技術総合研究所ロボットイノベーションセンター

#### O-02 コロナウィルス（COVID-19）蔓延時における在宅支援の考え方と実践報告

○古本 晃平<sup>1</sup>、下野 敏広<sup>1</sup>、井上 悠里<sup>2</sup>、中島 洋子<sup>2</sup>

1. 医療法人 豊仁会 多機能型事業所スピカ、2. 医療法人 豊仁会 まな星クリニック

#### O-03 COVID-19に伴う休校措置が中学生 ASD 男児のメンタルヘルスに及ぼす影響

○三好 紀子<sup>1・2</sup>、松本 恵<sup>1・3</sup>、金井 講治<sup>1</sup>、池田 学<sup>1</sup>

1. 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学、
2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 子どものこころの分子統御機構研究センター、
3. 大阪大学大学院連合小児発達学研究科 行動神経学・神経精神医学寄附講座

#### O-04 アーリースタートデンバーモデル(ESDM)を用いた自閉スペクトラム症の超早期介入の成果(第1報)

○館農 幸恵<sup>1</sup>、館農 勝<sup>1・2</sup>、矢野 亜由美<sup>1</sup>、南波 江太郎<sup>1・2</sup>、白石 映里<sup>1</sup>

1. ときわこども発達センター、2. ときわ病院

#### O-05 「乳幼児期の行動について」チェックリストの臨床的有用性に関する研究

○武田 俊信<sup>1</sup>、長田 洋和<sup>3</sup>、栗田 廣<sup>2</sup>

1. 龍谷大学文学部 臨床心理学科、2. 全国療育相談センター、
3. 白百合女子大学人間総合学部発達心理学科

#### O-06 地域における5歳の自閉スペクトラム症の疫学調査～調整有病率と累積発生率～

○斉藤 まなぶ<sup>1</sup>、坂本 由唯<sup>1</sup>、足立 匡基<sup>2</sup>、高橋 芳雄<sup>2</sup>、大里 絢子<sup>1</sup>、三上 珠希<sup>3</sup>、照井 藍<sup>1</sup>、栗林 理人<sup>2</sup>、中村 和彦<sup>1・3</sup>

1. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、
2. 弘前大学大学院保健学研究科・医学部心理支援科学科、
3. 弘前大学医学部附属子どものこころの発達研究センター

~~O-07 急激な社会変動への対処 自閉スペクトラム症の児童へのオンライン支援  
取り下げ ○久賀谷 洋<sup>1・2</sup>、田中 浩一郎<sup>3</sup>~~

- ~~1. オフィスほん、2. 千里金蘭大学、3. 京都市児童福祉センター~~

#### O-08 青年期自閉スペクトラム症への短期集中型「自己理解」プログラムの試み(第4報)

○藤井 寛子<sup>1</sup>、木谷 秀勝<sup>2</sup>、舩越 高樹<sup>3</sup>、山口 真理子<sup>4</sup>、坂本 佳代子<sup>1</sup>、牛見 明日香<sup>5</sup>、土橋 悠加<sup>6</sup>、中並 朋晶<sup>1</sup>

1. なかなみメンタルクリニック、2. 山口大学教育学部、3. 国立高等専門学校機構 本部、
4. 下関市こども発達センター、5. まかたこどもアレルギークリニック、
6. なかにわメンタルクリニック

- O-09 自閉スペクトラム症の目領域への注視に不安 / 抑うつが与える影響の発達段階での違いについて**  
 ○藤岡 徹<sup>1・2・3</sup>、滝口 慎一郎<sup>2・3</sup>、藤澤 隆史<sup>2・4</sup>、松崎 秀夫<sup>2・3・4</sup>、友田 明美<sup>2・3・4</sup>、小坂 浩隆<sup>2・3・5</sup>  
 1. 福井大学教育学部、2. 連合小児発達学研究所、3. 福井大病院・子どものこころ診療部、4. 福井大・子どものこころの発達研究センター、5. 福井大学精神医学
- O-10 脳科学・遺伝学的アプローチにおける自閉スペクトラム症の感覚特性の評価**  
 ○丁 ミンヨン、幅田 加以瑛、神谷 拓、大森 一郎、小坂 浩隆  
 福井大学医学部精神医学
- O-11 発達障害を対象としたインターネット依存度テスト (IAT) と IAT 改訂版 (IAT-R) の結果の比較・相関について**  
 ○館農 勝<sup>1</sup>、南波 江太郎<sup>1</sup>、矢野 亜由美<sup>1</sup>、白石 映里<sup>1</sup>、杉山 紗詠子<sup>1・2</sup>、中右 麻理子<sup>1・3</sup>、館農 幸恵<sup>1</sup>  
 1. ときわ病院・ときわこども発達センター、2. 北海道立子ども総合医療・療育センター、3. 北海道大学病院 精神科神経科
- O-12 神戸大学移行支援プログラムに参加した発達障害のある高校生の認知特性  
 – WAIS- IV, SRS-2, Vineland- II の結果から –**  
 ○鳥居 深雪<sup>1</sup>、村中 泰子<sup>2</sup>  
 1. 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所、2. 神戸大学キャンパスライフ支援センター
- O-13 成人期に初めて診断された ASD 患者の AQ の特徴**  
 ○江口 聡<sup>1</sup>、黒田 美保<sup>2</sup>、濱田 純子<sup>3</sup>、江里口 陽介<sup>1</sup>、金生 由紀子<sup>1</sup>  
 1. 東京大学医学部附属病院こころの発達診療部、2. 帝京大学文学部心理学科、3. 東京大学医学部附属病院精神神経科
- O-14 自閉症スペクトラムを抱える思春期の子どもと親が対峙する課題の検証  
 – 思春期に直面する課題と解決案を掲載したパンフレットの作成 –**  
 ○福森 優司<sup>1</sup>、高橋 裕美<sup>1</sup>、三好 紀子<sup>2・4</sup>、松本 恵<sup>3・4</sup>、大西 光雄<sup>5</sup>  
 1. 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター、  
 2. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 子どものこころの分子統御機構研究センター、  
 3. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 行動神経学・神経精神医学寄附講座、  
 4. 大阪大学大学院医学系研究科精神医学教室、  
 5. 国立病院機構 大阪医療センター 救命救急センター
- O-15 自閉スペクトラム症の感覚異常と脳皮質厚の関連性**  
 ○幅田 加以瑛、丁 ミンヨン、神谷 拓、大森 一郎、小坂 浩隆  
 福井大学医学部 精神医学
- O-19 自閉スペクトラム症男児へ「The CAT-kit」を用いた症例**  
 ○高橋 美和<sup>1</sup>、齊藤 万比古<sup>1・3</sup>、小平 雅基<sup>3</sup>、細金 奈奈<sup>3</sup>、齋藤 真樹子<sup>1・2</sup>、木原 望美<sup>1・2</sup>、山口 貴史<sup>1・2</sup>  
 1. 母子愛育会 愛育相談所、2. 総合母子保健センター愛育クリニック 医療福祉室、3. 総合母子保健センター愛育クリニック 小児精神保健科

- O-20 「テロを起こす、支配してやる」と叫び、家庭・病棟で暴れた自閉スペクトラム症の思春期男児例  
 ○柳生 一白<sup>1</sup>、前田 珠希<sup>2</sup>、中右 麻理子<sup>2</sup>、須山 聡<sup>1</sup>、齊藤 卓弥<sup>1</sup>  
 1. 北海道大学医学研究科 児童思春期精神医学講座、2. 市立室蘭総合病院 精神科、
- O-21 自殺企図後の治療経過で自己理解・自己受容が進んだ自閉スペクトラム症児の一例  
 ○櫻井 類、藤田 梓、加藤 康彦、日指 沢子、山村 淳一  
 国立病院機構天竜病院
- ~~O-22~~ **P-78** 社会的不適応が部分的な改善に留まっている成人期の自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害の合併例について  
**に変更** ○板垣 俊太郎<sup>1・2</sup>、佐藤 亜希子<sup>1</sup>、和田 知紘<sup>1</sup>、照井 稔宏<sup>1</sup>、横倉 俊也<sup>1</sup>、伊瀬 陽子<sup>1・3</sup>、  
 松本 貴智<sup>1・2</sup>、増子 博文<sup>1・3</sup>、矢部 博興<sup>1</sup>  
 1. 福島県立医科大学 神経精神医学講座、2. 福島県立医科大学 事務局大学健康管理センター、  
 3. 福島県発達障がい者支援センター

## ADHD

- O-23 注意欠如・多動症多発家系の全エクソシーケンス解析  
 ○森本 芳郎<sup>1・2</sup>、今村 明<sup>1・2</sup>、小澤 寛樹<sup>1・2</sup>  
 1. 長崎大学病院 地域連携児童思春期精神医学診療部、  
 2. 長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科精神神経科学
- O-24 当初注意欠如・多動症を疑われて来院したが ACTH 分泌低下症と診断した 10 歳未満男児の症例  
 ○藤田 基<sup>1・2</sup>、藤田 観喜<sup>1</sup>  
 1. 道玄坂ふじたクリニック、2. 河北総合病院心療科
- O-25 当初注意欠如・多動症として治療されていたナルコレプシーの 10 歳代女児の症例  
 ○藤田 基<sup>1・2</sup>、藤田 観喜<sup>1</sup>  
 1. 道玄坂ふじたクリニック、2. 河北総合病院心療科

## 生物学的アプローチ

- O-26 発達障害における経頭蓋磁気刺激（TMS）のエビデンスレベルと安全性  
 ～時期尚早な臨床応用に警鐘～  
 中村 元昭  
 昭和大学発達障害医療研究所
- O-27 頸部運動チックの回転運動の定量化  
 ○江里口 陽介、金生 由紀子  
 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部

## 強迫症・チック症

- O-28 当院を受診した強迫症の児童の検討：臨床的特徴による分類  
 ○山根 謙一、香月 大輔、高田 加奈子、松本 美菜子、山下 洋  
 九州大学病院 子どものこころの診療部
- O-29 森田療法的面接で治療した思春期青年期の強迫性障害 4 症例について  
 ○原田 聡志、福治 康秀  
 独立行政法人国立病院機構 琉球病院

- 0-30 家族への巻き込み症状が顕著な強迫性障害の小3女兒に対して母親へのシステムズアプローチに基づく精神療法で症状と家族関係が改善した一例  
宋 大光  
宋こどものこころ醫院

### 摂食障害

- 0-31 一般精神科診療の中での摂食障害の治療  
眞田 陸  
滋賀医科大学精神医学講座
- 0-32 単科精神科病院の児童思春期センターで診療を行った摂食障害患者の検討  
○小林 三希子<sup>1</sup>、小笠原 さゆ里<sup>2</sup>、和田 慶太<sup>1</sup>、尾崎 仁<sup>1</sup>、持田 啓<sup>2</sup>、木下 直俊<sup>1</sup>、渡邊 敦司<sup>1</sup>、田中 究<sup>1</sup>  
1. 兵庫県立ひょうごこころの医療センター、2. 兵庫県立こども病院

### 気分障害

- 0-33 思春期に自傷行為を繰り返した女性が躁うつ混合状態を呈した一例  
○下出 崇輝、松岡 孝裕、横山 富士男  
埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科

### 不安症など

- 0-34 自殺関連事象を伴う児童・青年期の適応障害患者のストレス因と援助希求に関する調査  
○宮崎 秀仁<sup>1・3</sup>、藤田 純<sup>1・3</sup>、青木 芳子<sup>1・3</sup>、青山 久美<sup>2・3</sup>、浅沼 和哉<sup>2・3</sup>、戸井田 真木<sup>2・3</sup>、菱本 明豊<sup>1・3</sup>  
1. 横浜市立大学附属病院、2. 横浜市立大学附属市民総合医療センター精神医療センター、3. 横浜市立大学精神医学教室
- 0-35 選択性緘黙児に対して刺激フェイディング法が奏功した一例ー児童精神科クリニックでの取り組みー  
○円増 葵、宋 大光  
医療法人不動心 宋こどものこころ醫院
- 0-36 認知行動療法的介入にて改善を認めた社交不安症と回避・制限性食物摂取症の併存例  
○横倉 俊也<sup>1</sup>、板垣 俊太郎<sup>1</sup>、照井 稔宏<sup>1</sup>、和田 知紘<sup>1</sup>、佐藤 亜希子<sup>1</sup>、伊瀬 陽子<sup>1・2</sup>、松本 貴智<sup>1</sup>、増子 博文<sup>1・2</sup>、矢部 博興<sup>1</sup>  
1. 福島県立医科大学 医学部 神経精神医学講座、2. 福島県総合療育センター
- 0-37 半年の通院治療で入試合格に至った高校3年2学期発症の広場恐怖症の一例  
○井上 勝夫<sup>1・2</sup>、神谷 俊介<sup>2</sup>、山角 圭<sup>2</sup>、石田 匡宏<sup>1</sup>、小野 剛<sup>1</sup>、中里 友香<sup>1</sup>、宮岡 等<sup>1・2</sup>  
1. 北里大学医学部精神科学、2. 北里大学医学部地域児童精神科医療学

### 心的外傷・PTSD

- 0-38 性被害患者の入院治療における、当院の多職種間の連携と、警察・学校なども含めた多機関との連携、その治療的なかかわりについて  
○堀川 智史<sup>1</sup>、堀川 公平、小鳥居 今日子、堀川 眞理子  
1. 医療法人コミュニテ 風と虹 のぞえ総合診療病院 (医局)、2. 小鳥居諫早病院

## 入院治療

- 0-39 「治療共同体」想定に基づく児童思春期病棟の展開  
～子どもたちとスタッフが課題集団であり続けるために～  
○堀川 直希<sup>1・2・3</sup>、堀川 奈津子<sup>1</sup>、堀川 公平<sup>1・2</sup>  
1. 医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院、  
2. 医療法人コミュニテ風と虹 のぞえ総合心療病院、 3. 久留米大学医学部 神経精神医学講座
- 0-40 「緑色が怖い」と保護室の再体験症状が出現した女児の治療経過  
○藤田 梓、加藤 康彦、櫻井 類、日指 沢子、山村 淳一  
独立行政法人国立病院機構 天竜病院

## リエゾン・治療連携

- 0-42 宮崎大学医学部附属病院における自殺企図症例－20歳未満の症例の特徴－  
三好 良英  
宮崎大学医学部臨床神経学講座 精神医学分野
- 0-43 被虐待経験があり解離性同一性障害を合併した若年妊婦に対し周産期支援を行った1例  
○井上 絵梨<sup>1・3</sup>、森川 真子<sup>2</sup>  
1. 仁精会三河病院 精神科、 2. 名古屋大学医学部附属病院 親と子どもの心療科、  
3. 名古屋大学医学部附属病院 精神科

## 外来・入院統計

- 0-44 大学病院における「児童思春期こころの相談センター」開設の現状と課題1  
－院内・学内連携を通じて－  
○磯部 昌憲、中村 伸、上月 遥、長尾 海里、砂田 桃、戸瀬 景茉、義村 さや香、上床 輝久、  
村井 俊哉  
京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座精神医学教室
- 0-45 大学病院における「児童思春期こころの相談センター」開設の現状と課題2  
－センター受診前後の心理検査実施状況－  
○長尾 海里、上月 遥、中村 伸、砂田 桃、戸瀬 景茉、義村 さや香、上床 輝久、村井 俊哉、  
磯部 昌憲  
京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座精神医学教室
- 0-46 大学病院における「児童思春期こころの相談センター」開設の現状と課題3  
○上月 遥、長尾 海里、中村 伸、砂田 桃、戸瀬 景茉、義村 さや香、上床 輝久、村井 俊哉、  
磯部 昌憲  
京都大学大学院医学研究科 脳病態生理学講座精神医学教室

## 虐待

- 0-47 当院児童精神科部門における被虐待児の診療（1）診療体制の構築過程  
○古橋 功一、岡村 千津子、吉岡 真吾  
独立行政法人国立病院機構東尾張病院
- 0-48 当院児童精神科部門における被虐待児の診療（2）2019年度の診療実績  
○古橋 功一、岡村 千津子、吉岡 真吾  
独立行政法人国立病院機構東尾張病院

## 精神療法・心理療法など

- 0-49 学校での「問題」を「循環」として見ることで不適切行動が消失した1症例  
ーシステムズアプローチに基づく精神療法ー  
○上田 健斗、宋 大光  
医療法人不動心宋こどものこころ醫院
- 0-50 神経発達症の児童の保護者を対象とした短縮型ペアレント・トレーニングのランダム化待機コントロール比較対象研究  
○香月 大輔、高田 加奈子、松本 美菜子、山根 謙一、山下 洋  
九州大学病院 子どものこころ診療部
- 0-51 入所児童の変化と治療プログラムの効果について  
○西木戸 聡<sup>1</sup>、菊池 清美<sup>1</sup>、堀川 直希<sup>2</sup>、堀川 公平<sup>3</sup>  
1. 社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園、2. 医療法人コミュニティ風と虹 のぞえの丘病院、  
3. 医療法人コミュニティ風と虹 のぞえ総合心療病院

## 心理社会的援助・家族支援

- ~~0-52 家族を抱えるということ 児童精神科診療所における親子への心理支援について~~  
取り下げ ○高木 駿、奥 薫、川畑 友二  
~~タリニッタ川畑~~
- ~~0-53 虐待ケースにおける状況の「乖離」への援助（家族を抱える機能）~~  
取り下げ 川畑 友二  
~~タリニッタ川畑~~
- 0-54 思春期患者の保護者を対象としたペアレントトレーニングの実践  
○廣谷 麻実、泉本 雄司、泉本 夏子  
明石こころのホスピタル
- 0-55 自閉スペクトラム症に神経性やせ症が合併した女兒の一例：診察室を超えた支援のあり方について  
○神谷 俊介<sup>1</sup>、中島 康輔<sup>1</sup>、井上 勝夫<sup>1,2</sup>、宮岡 等<sup>1,2</sup>  
1. 北里大学医学部 地域児童精神科医療学、2. 北里大学医学部 精神科学
- 0-56 精神科急性期治療病棟への入院を要した患者の“子ども支援”  
○松岡 美智子<sup>1</sup>、長沼 清<sup>1,2</sup>、千葉 比呂美<sup>1</sup>、内村 直尚<sup>1</sup>  
1. 久留米大学 神経精神医学教室、2. 社会医療法人正光会 松ヶ丘病院

## 学校精神保健

- 0-57 個人・学校レベルのソーシャル・キャピタルが小中学生の抑うつに与える効果  
ーマルチレベル分析による検討ー  
○森 裕幸<sup>1</sup>、足立 匡基<sup>1,2</sup>、高橋 芳雄<sup>1,2</sup>、新川 広樹<sup>1</sup>、中村 和彦<sup>1,3</sup>  
1. 弘前大学大学院医学研究科 附属子どものこころの発達研究センター、  
2. 弘前大学大学院保健学研究科、3. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座
- 0-58 「児童生徒のメンタルヘルス気づきシート」の活用に対する学校教職員の評価  
○綿井 雅康<sup>1,2</sup>、采女 智津江<sup>1,3</sup>、荊尾 玲子<sup>1,4</sup>、生天目 聖子<sup>1,5</sup>、十一 元三<sup>1,6</sup>  
1. 神経発達症研究推進機構、2. 十文字学園女子大学、3. 順天堂大学、  
4. 安来市教育支援センター、5. 滋賀県心の教育相談センター、6. 京都大学

## 早産児、精神発達、睡眠衛生

### 0-59 早産児における睡眠と精神発達

太田 英伸

国立精神・神経医療研究センター 睡眠覚醒障害研究部、秋田大学大学院 医学系研究科医学専攻 病態制御医学系 精神科学講座、静和会 浅井病院 精神科

## 学校精神保健

### 0-60 学校訪問睡眠授業による子どもの行動変容

○大川 匡子<sup>1・2</sup>、高橋 清久<sup>3</sup>、田村 典久<sup>4</sup>、成澤 元<sup>5・6</sup>

1. 公益財団法人神経研究所 睡眠健康推進機構、2. 医療法人社団睡眠総合ケアクリニック代々木、
3. 公益財団法人神経研究所 精神神経科学センター、4. 広島大学 教育科学研究科 心理学講座、
5. 愛知淑徳大学 心理学部、6. 公益財団法人神経研究所

### 0-61 教師からの体罰でトラウマを受けた児童の治療…児童精神科医の役割

近藤 強

チヨダクリニック 精神科 心療内科 児童精神科

### 0-62 児童精神科クリニックにおける KABC- II を活用した支援の手立て

○久保井 路子、宋 大光

医療法人不動心 宋こどものこころ醫院

## 乳幼児

### 0-63 児童福祉領域における精神医学的課題（3）

ー児童相談所において診察を行った3歳以下の児童の検討ー

中山 浩

川崎市こども家庭センター

## 地域連携

### 0-64 東日本大震災後1年間に出産・育児を行った母親の自殺の危険性の検討

○吉岡 靖史、山家 健仁、内出 希、柿坂 佳菜恵、藤原 碧、松尾 菜津美、八木 淳子  
岩手医科大学神経精神科学講座

### 0-65 家族機能の問題や暴言・暴力により入院が長期化した双子の小学生男児の退院支援 ～元の施設から拒否された双子を家族と地域に戻すまで～

野田 明希

医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院

## リエゾン・治療連携

### 0-66 児童心理治療施設における問題行動への取り組み～精神科病院との連携～

○菊池 清美<sup>1</sup>、西木戸 聡<sup>1</sup>、堀川 直希<sup>2</sup>、堀川 公平<sup>3</sup>

1. 社会福祉法人風と虹 筑後いずみ園、2. 医療法人コミュニテ風と虹 のぞえの丘病院、
3. 医療法人コミュニテ風と虹 のぞえ総合心療病院

## 少年事件・司法関連

### 0-67 女子非行少年の生活世界と性非行の関係についてー少年院の在院者の事例から

鈴木 育美<sup>1・2</sup>

1. 北海少年院 紫明女子学院、2. 北海道大学大学院教育学院教育心理学講座

O-68 発達障害と精神鑑定  
安藤 久美子  
聖マリアンナ医科大学 神経精神科

## その他

O-69 児童青年期の精神科臨床における QOL と精神症状の連関  
○稲垣 貴彦<sup>1,2</sup>、栗山 健一<sup>3</sup>、村上 純一<sup>1,2</sup>、石田 展弥<sup>1,2</sup>、尾関 祐二<sup>2</sup>  
1. 医療法人明和会 琵琶湖病院、2. 滋賀医科大学 精神医学講座、  
3. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 睡眠・覚醒障害研究部

O-70 児童精神科クリニックにおける療育の取り組みと利点  
○藤枝 周平、宋 大光  
医療法人不動心 宋こどものこころ醫院

O-71 カナダ・ブリティッシュコロンビア州における児童思春期メンタルヘルスの実践と教育  
井上 隆志  
東京都立小児総合医療センター

O-72 児童思春期心因性疼痛の2症例についての検討 親子双方の評価から  
○松本 恵<sup>1,2</sup>、三好 紀子<sup>2,3</sup>、金井 講治<sup>2</sup>、池田 学<sup>2</sup>  
1. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所 行動神経学・神経精神医学寄付講座、  
2. 大阪大学大学院医学系研究科 精神医学教室、  
3. 大阪大学大学院連合小児発達学研究所子どものこころの分子統御機構研究センター

O-73 児童精神科クリニックにおけるビデオカンファレンスの取り組み  
ー心理士の臨床力向上とオリエンテーションに合ったカンファレンス実施を目指してー  
○守屋 彩加、宋 大光  
医療法人不動心 宋こどものこころ醫院

## P-65 から変更

O-74 TAIYO Project ー小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画ー

○佐々木 剛<sup>1</sup>、橘 真澄<sup>1</sup>、高橋 純平<sup>1,2</sup>、久能 勝<sup>2</sup>、倉田 勉<sup>1,3</sup>、志津 雄一郎<sup>4</sup>、石川 真紀<sup>5</sup>、  
細田 豊<sup>6</sup>、中里 道子<sup>6</sup>、磯野 友厚<sup>7</sup>、青木 勉<sup>7</sup>、安藤 咲穂<sup>8</sup>、篠田 直之<sup>9</sup>  
1. 千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部、  
2. 千葉大学子どものこころの発達教育研究センター、3. 袖ヶ浦さつき台病院 精神科、  
4. 医療法人双和会 志津クリニック、5. 千葉県精神保健福祉センター、  
6. 国際医療福祉大学成田病院 精神科、7. 総合病院国保旭中央病院 神経精神科、  
8. 千葉県こども病院 精神科、9. 千葉市立青葉病院 児童精神科



## 一般演題（ポスター発表）

### PDD / 自閉スペクトラム症（ASD）

#### P-01 新型コロナウイルス（COVID-19）の理解促進および対応法の獲得を目指した自閉スペクトラム症児向けパンフレットの作成

○芳野 歩美<sup>1,2</sup>、河邊 憲太郎<sup>1,2</sup>、見山 朋恵<sup>2,3</sup>、仲地 究<sup>1,2</sup>、細川 里瑛<sup>1,2</sup>、三好 幸代<sup>1,2</sup>、根岸 彩花<sup>1</sup>、松本 優<sup>1</sup>、服鳥 秀幸<sup>1,2</sup>、石田 愛<sup>1,2</sup>、堀内 史枝<sup>1,2</sup>

1. 愛媛大学大学院医学系研究科 分子・機能領域 精神神経科学講座、
2. 愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター、3. 創精会 松山記念病院

#### P-02 新型コロナウイルスのパンデミック下で回避制限性食物摂取症を発症し、自閉スペクトラム症が同定された学童例

○坂本 祥子、宮脇 大、後藤 彩子、播摩 祐治、濱 宏樹、角野 信、井上 幸紀  
大阪市立大学医学部附属病院 神経精神科

#### P-03 自閉スペクトラム症における前頭前皮質の血液動態反応と自殺リスクの関連（第2報）

○水井 亮<sup>1</sup>、太田 豊作<sup>1</sup>、飯田 順三<sup>2</sup>、濱野 泰光<sup>1</sup>、金田 東奎<sup>1</sup>、石岡 希望<sup>1</sup>、岡崎 康輔<sup>1</sup>、山室 和彦<sup>1</sup>、岸本 直子<sup>1</sup>、岸本 年史<sup>1</sup>

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、2. 奈良県立医科大学 看護学科人間発達学

#### P-04 神経発達症とてんかんの併存

中川 栄二  
国立精神・神経医療研究センター病院 小児神経科

#### P-05 自閉スペクトラム症における感覚統合療法の効果—事象関連電位を用いた検討

○中島 史裕<sup>1</sup>、太田 豊作<sup>1</sup>、飯田 順三<sup>2</sup>、水井 亮<sup>1</sup>、岡崎 康輔<sup>1</sup>、山室 和彦<sup>1</sup>、岸本 直子<sup>1</sup>、浦谷 光裕<sup>1</sup>、澤井 創<sup>3</sup>、岩坂 英巳<sup>3</sup>、岸本 年史<sup>1</sup>

1. 奈良県立医科大学 精神医学講座、2. 奈良県立医科大学 看護学科人間発達学、
3. 一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん 子どもと大人の発達センター

#### P-06 自閉スペクトラム症（ASD）の幼児の早期療育における養育者の不安

○濱田 純子<sup>1</sup>、石川 菜津美<sup>2</sup>、早野 留果<sup>2</sup>、金生 由紀子<sup>2</sup>  
1. 東京大学医学部附属病院 精神神経科、2. 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部

#### P-07 民間の学習支援教室を利用する発達障害児・者の親の抑うつ傾向と関連要因に関する横断的研究

○谷川 裕子<sup>1</sup>、野崎 章子<sup>2</sup>  
1. 千葉大学大学院医科学研究院認知行動生理学、2. 千葉大学大学院看護学研究科

#### P-08 自閉症児の保護者に対する「おうち遊び」支援

—タブレット端末を用いたビデオフィードバックの検討—

○石川 菜津美<sup>1</sup>、濱田 純子<sup>2</sup>、早野 留果<sup>1</sup>、金生 由紀子<sup>1,3</sup>

1. 東京大学医学部附属病院 こころの発達診療部、2. 東京大学医学部附属病院 精神神経科、
3. 東京大学大学院医学系研究科 こころの発達医学分野

#### P-09 自閉スペクトラム症児に対する遊びを通じた親介在型介入法の1例

木下 実咲  
湘南学園中学校高等学校

- P-10 本邦での新型コロナウイルス感染拡大防止の為の長期間自粛が自閉スペクトラム症児に及ぼした影響  
○細川 里瑛<sup>1,2</sup>、河邊 憲太郎<sup>1,2</sup>、仲地 究<sup>1,2</sup>、芳野 歩美<sup>1,2</sup>、石田 愛<sup>1,2</sup>、服鳥 秀幸<sup>1,2</sup>、  
松本 優<sup>1,2</sup>、根岸 彩花<sup>1,2</sup>、三好 幸代<sup>1,2</sup>、見山 朋恵<sup>2,3</sup>、堀内 史枝<sup>1,2</sup>  
1. 愛媛大学大学院医学系研究科 分子・機能領域 精神神経科学講座、  
2. 愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター、3. 創精会 松山記念病院

- P-11 台風被害を契機に PTSD が併発した発達障害症例の病態機序について  
○本田 教一、菅野 智美、宇佐神 里美  
松村総合病院附属舞子浜病院 精神神経科

- P-12 発達障害児の親を対象としたインターネットを利用したペアレント・トレーニングの試み  
ー自己管理学習とアプリを用いた遠隔型指導ー  
○井上 菜穂<sup>1</sup>、中谷 啓太<sup>2</sup>、式部 陽子<sup>3</sup>、井上 雅彦<sup>4</sup>  
1. 鳥取大学 学生支援センター、2. 鳥取大学附属病院 子どもの心の診療拠点病院推進室、  
3. 帝塚山大学 心理学部、4. 鳥取大学大学院 医学系研究科

## ADHD

- P-14 MSPA にみられる ASD 群、ADHD 群、ASD/ADHD 群の評価傾向の検討  
○中島 陽大<sup>1</sup>、武田 俊信<sup>2</sup>、日衛嶋 郁子<sup>3</sup>、前田 真治<sup>3</sup>  
1. 洛和会音羽病院 臨床心理室、2. 龍谷大学文学部 臨床心理学科、3. 洛和会音羽病院 小児科

- P-15 薬物療法により症状が安定した注意欠如・多動症患者において、薬物療法は終了できるのか？  
○辻井 農亜<sup>1</sup>、岡田 俊<sup>2</sup>、宇佐美 政英<sup>3</sup>、藤田 純一<sup>4</sup>、根来 秀樹<sup>5</sup>、飯田 順三<sup>6</sup>、齊藤 卓弥<sup>7</sup>  
1. 近畿大学医学部附属病院 精神神経科学教室、  
2. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、  
3. 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科・子どものこころ総合診療センター、  
4. 横浜市立大学附属病院児童精神科、5. 奈良教育大学教職開発講座障害児医学分野、  
6. 奈良県立医科大学医学部看護学科、7. 北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野

- P-16 注意欠如・多動症治療薬の継続か中止かを選択するデジジョン・エイドの作成と児童青年期の治療  
の意思決定をめぐる課題  
○岡田 俊<sup>1</sup>、辻井 農亜<sup>2</sup>、宇佐美 政英<sup>3</sup>、藤田 純一<sup>4</sup>、根来 秀樹<sup>5</sup>、飯田 順三<sup>6</sup>、齊藤 卓弥<sup>7</sup>  
1. 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所知的・発達障害研究部、  
2. 近畿大学医学部精神神経科学教室、  
3. 国立国際医療研究センター国府台病院児童精神科・子どものこころ総合診療センター、  
4. 横浜市立大学附属病院児童精神科、5. 奈良教育大学教職開発講座障害児医学分野、  
6. 奈良県立医科大学医学部看護学科、7. 北海道大学大学院医学研究院児童思春期精神医学分野

- P-17 不安症を合併する小児の ADHD の検討  
○日衛嶋 郁子<sup>1</sup>、前田 真治<sup>1</sup>、中島 陽大<sup>2</sup>、崎濱 盛三<sup>3</sup>  
1. 洛和会音羽病院 小児科、2. 洛和会音羽病院 臨床心理室、3. 洛和会音羽病院 精神科

## その他の神経発達症

- P-18 起立性調節障害におけるウェアラブルセンサーの診断、症状評価における有用性について；24 時  
間心拍変動と加速度計機能に着目して  
○小野 靖樹<sup>1</sup>、菊知 充<sup>2</sup>、中村 和彦<sup>1</sup>  
1. 弘前大学大学院医学研究科神経科精神科、2. 金沢大学附属病院神経科精神科

## 統合失調症・ARMS

- P-19 子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム (CPSS) 運用の試み  
○濱崎 由紀子<sup>1</sup>、松尾 雅博<sup>2</sup>、阪上 由子<sup>3</sup>、眞田 陸<sup>2</sup>  
1. 京都女子大学現代社会学部、2. 滋賀医科大学医学部精神医学講座、  
3. 滋賀医科大学医学部小児科学講座
- P-20 DSP-5423 (blonanserin 経口剤) の小児統合失調症患者を対象とした検証的試験  
○中村 洋<sup>1</sup>、齊藤 卓弥<sup>2</sup>  
1. 大日本住友製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部、  
2. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門
- P-21 DSP-5423 (blonanserin 経口剤) の小児統合失調症患者を対象とした長期投与試験 (中間報告)  
○中村 洋<sup>1</sup>、齊藤 卓弥<sup>2</sup>  
1. 大日本住友製薬株式会社 メディカルアフェアーズ部、  
2. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門
- P-22 アリピプラゾールにて社会復帰できたアットリスク精神状態 (At-Risk Mental State: ARMS) の 1 例  
内藤 剛大  
和光医院
- P-23 幻聴幻視、被害妄想、考想伝播など多彩な症状を呈する統合失調症を発症した 11 歳の女児の 1 例  
○久保田 康介、根路銘 要太、島内 智子、森野 百合子  
東京都立 小児総合医療センター 児童思春期精神科

## 強迫症・チック症

- P-24 治療導入に入院加療を用い奏功した児童期強迫症の一例  
○荻野 俊、向井 馨一郎  
兵庫医科大学精神科神経科学講座
- P-25 保護者の不安を軽減することで症状改善を認めた児童思春期の強迫性障害の一例  
○川久保 綾香<sup>1</sup>、岡 琢哉<sup>1,2</sup>  
1. 東京都立小児総合医療センター、2. 医療法人社団神尾陽子記念会 発達障害クリニック
- P-26 自閉症スペクトラム障害の特性を有する児童の強迫性障害において、強迫症状の鑑別に苦慮した一例  
○平澤 翔太<sup>1</sup>、嶋田 圭甫<sup>2</sup>、海老島 健<sup>3</sup>  
1. 豊島病院精神科、2. 東京都立多摩総合医療センター精神神経科、  
3. 東京都立小児総合医療センター児童思春期精神科
- P-27 チック関連強迫症を併存した compulsive masturbation の一例  
向井 馨一郎  
兵庫医科大学精神科神経学講座

## 摂食障害

- P-28 神経性無食欲症の入院治療における再栄養療法の後方視的検討 第 3 報  
○中川 吉丈<sup>1</sup>、公家里 依<sup>1,2</sup>、菊地 祐子<sup>1</sup>、森野 百合子<sup>1</sup>  
1. 都立小児総合医療センター、2. 信州大学医学部附属病院

**P-29 P300を用いた思春期神経性無食欲症における認知機能の評価**

○岡崎 康輔<sup>1</sup>、山室 和彦<sup>1</sup>、紀本 創兵<sup>1</sup>、長濱 剛史<sup>2</sup>、疇地 崇広<sup>3</sup>、山口 泰成<sup>1</sup>、松浦 広樹<sup>4</sup>、岸本 直子<sup>1</sup>、太田 豊作<sup>1</sup>、飯田 順三<sup>5</sup>

1. 奈良県立医科大学精神医学講座、2. 東大阪市立障害児者支援センター、
3. 天理よろづ相談所病院精神神経科、4. 奈良県総合リハビリテーションセンター精神科、
5. 奈良県立医科大学看護学科人間発達学

**P-30 神経性やせ症における体重回復前後での認知機能変化についての中間報告**

～青年期の3例について～

○和田 知絃<sup>1</sup>、板垣 俊太郎<sup>1</sup>、松本 貴智<sup>1</sup>、照井 稔宏<sup>1</sup>、横倉 俊也<sup>1</sup>、佐藤 亜希子<sup>1</sup>、伊瀬 陽子<sup>1・2</sup>、増子 博文<sup>1・2</sup>、矢部 博興<sup>1</sup>

1. 福島県立医科大学医学部神経精神医学講座、2. 福島県発達障がい者支援センター

**P-31 嘔吐に対し強い恐怖を示し認知行動療法とEMDRを治療に加えた回避・制限性食物摂取症(avoidant/restrictive food intake disorder: ARFID)の中学生男子の一例**

○三上 珠希<sup>1</sup>、斉藤 まなぶ<sup>3</sup>、大里 絢子<sup>3</sup>、坂本 由唯<sup>2</sup>、照井 藍<sup>2</sup>、中村 和彦<sup>1・3</sup>

1. 弘前大学大学院医学研究科 附属子どものこころの発達研究センター、
2. 弘前大学医学部 附属病院神経科精神科、3. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座

**P-32 難渋する昏迷に対して絵本の読み聞かせが重要な転機となった重症摂食障害女児例**

～「眠り姫」の精神病理についての一考察～

○佐藤 亜希子<sup>1</sup>、板垣 俊太郎<sup>1</sup>、松本 貴智<sup>1</sup>、和田 知絃<sup>1</sup>、横倉 俊也<sup>1</sup>、照井 稔宏<sup>1</sup>、伊瀬 陽子<sup>1・2</sup>、國井 泰人<sup>1・3</sup>、増子 博文<sup>1・2</sup>、矢部 博興<sup>1</sup>

1. 福島県立医科大学神経精神医学講座、2. 福島県総合療育センター、
3. 東北大学災害科学国際研究所災害精神医学分野

**心的外傷・PTSD**

**P-33 幻聴と自殺願望が著明な遅発性心的外傷後ストレス障害にアセナピンを使用した症例**

竹田 和弘

もりやま総合心療病院

**不安症など**

**P-34 精神科を受診する青年期患者の不安の特徴について—認知・知能との関連を踏まえて**

○野瀬 早織<sup>1</sup>、山本 円香<sup>1</sup>、中島 美千世<sup>1・2</sup>、深尾 琢<sup>3</sup>、塩入 俊樹<sup>3</sup>

1. 岐阜大学医学部附属病院精神科、2. Koharu terrace Clinic、
3. 岐阜大学大学院医学系研究科精神病理学分野

**P-35 当院精神科における身体症状症および関連症群の統計的特徴**

○持田 啓<sup>1</sup>、玉岡 文子<sup>1</sup>、小笠原 さゆり<sup>1</sup>、長谷川 弘子<sup>1・2</sup>、関口 典子<sup>1</sup>

1. 兵庫県立こども病院、2. 神戸市こども家庭センター

**入院治療**

**P-36 コロナ禍の中でネットゲーム依存への挑戦～児童精神科病棟での取り組み～**

○西本 佳世子、磯部 達夫、岩倉 昌子、菅原 知子、進藤 光子

東横恵愛病院

**P-37 COVID-19による非常事態宣言地域における児童精神科病棟のレクリエーションでの工夫**

○板垣 琴瑛、原田 郁大、森 一也、吉村 裕太、箱島 有輝、稲崎 久美、水本 有紀、宇佐美 政英  
国立国際医療研究センター国府台病院

P-38 地域単科精神科病院における児童思春期患者の入院治療

○長根 亜紀子<sup>1,2</sup>、手塚 直人<sup>2</sup>

1. 医療法人社団俊睿会 いずみクリニック、
2. 医療法人社団俊睿会 南埼玉病院

~~P-39 摂食障害の母親をもつ注意欠如・多動症女児の治療経過~~

~~取り下げ ○砂川 ひかる<sup>1</sup>、川原 洋<sup>3</sup>、牛島 洋景<sup>2</sup>、吉村 裕太<sup>1</sup>、箱島 有輝、稲崎 久美<sup>1</sup>、水本 有紀、宇佐美 政英<sup>1</sup>~~

- ~~1. 国立国際医療研究センター 国府台病院 児童精神科、~~
- ~~2. うしじまこころの診療所、~~
- ~~3. 医療法人信愛会玉名病院 精神科・児童精神科~~

リエゾン・治療連携

P-40 小児のバセドウ病における精神症状の臨床的特徴：多施設後方視的観察研究と前方視的観察研究第3報

○公家 里依<sup>1,2,3</sup>、桜井 優子<sup>4</sup>、菊地 祐子<sup>4</sup>

1. 信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部、
2. 信州大学医学部子どものこころの発達医学教室、
3. 東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科、
4. 東京都立小児総合医療センター子ども・家族支援部門

P-41 転換性障害の治療経過中に多発性神経障害による顔面神経麻痺を認めた1症例

○和気 玲<sup>1,2</sup>、松田 泰行<sup>2,3</sup>、稲垣 卓司<sup>4</sup>

1. 島根大学人間科学部、
2. 島根大学医学部精神医学講座、
3. 医療法人同仁会こなんホスピタル、
4. 島根大学教育学部

外来・入院統計

P-42 北里大学病院精神神経科児童・思春期部門における初診患者の動向に関する後方視的研究

○吉林 利文<sup>1,2,3</sup>、中里 友香<sup>2</sup>、小野 剛<sup>2</sup>、石田 匡宏<sup>2</sup>、山角 圭<sup>1</sup>、中島 康輔<sup>1</sup>、神谷 俊介<sup>1</sup>、井上 勝夫<sup>1,2</sup>、宮岡 等<sup>1,2</sup>

1. 北里大学医学部精神科学 地域児童精神科医療学、
2. 北里大学医学部精神科学、
3. 医療法人社団博奉会 相模ヶ丘病院

P-43 京都府立医科大学附属病院精神科・心療内科の児童青年期初診患者の動向と地域における役割

○小野 淳子<sup>1,2</sup>、桑原 明子<sup>1</sup>、水原 祐起<sup>1,2</sup>、飯田 直子<sup>1</sup>

1. 京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学、
2. 京都府立こども発達支援センター

P-44 神奈川県立総合療育相談センター児童精神科外来における薬物療法の現状

中島 智美

神奈川県立総合療育相談センター

P-45 児童精神科外来初診患者におけるIGDS-J高値患者の特徴

○浅沼 和哉<sup>1</sup>、青山 久美<sup>1</sup>、戸井田 真木<sup>1</sup>、宮崎 秀仁<sup>2</sup>、藤田 純一<sup>2</sup>、高橋 雄一<sup>3</sup>、菱本 明豊<sup>1,2</sup>

1. 横浜市立大学附属市民総合医療センター 精神医療センター、
2. 横浜市立大学附属病院 児童精神科、
3. 横浜市東部地域療育センター

P-46 上野病院における児童思春期外来患者の動向

岸本 光一

ハートランドしぎさん 分院上野病院

- P-47 「子どものこころの健康相談」における相談ニーズに関する検討  
○佐藤 孝憲、成重 竜一郎  
公徳会若宮病院
- P-48 本邦での新型コロナウイルス感染拡大防止の為に長期間自粛が子どものメディア利用に及ぼした影響  
○河邊 憲太郎<sup>1,2</sup>、細川 里瑛<sup>1,2</sup>、仲地 究<sup>1,2</sup>、芳野 歩美<sup>1,2</sup>、服鳥 秀幸<sup>1,2</sup>、石田 愛<sup>1,2</sup>、  
松本 優<sup>1,2</sup>、根岸 彩花<sup>1,2</sup>、三好 幸代<sup>1,2</sup>、見山 朋恵<sup>2,3</sup>、堀内 史枝<sup>1,2</sup>  
1. 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学講座、  
2. 愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター、3. 創精会 松山記念病院
- P-49 児童・思春期精神科専用病棟が無い自治体での精神科病院の役割  
～自閉スペクトラム症 / 広汎性発達障害患者を中心とした視点から～  
柳澤 尚実  
公益社団法人 岐阜病院
- P-50 北海道大学病院精神科児童外来における新型コロナウイルス感染拡大初期の受診患者の動向  
○須山 聡<sup>1</sup>、前田 珠希<sup>2</sup>、中右 麻理子<sup>2</sup>、柳生 一自<sup>1</sup>、齊藤 卓弥<sup>1</sup>  
1. 北海道大学病院 児童思春期精神医学研究部門、2. 北海道大学 精神科神経科
- P-51 COVID-19 感染対策のための諸制限が患児・養育者に与える影響に関する研究  
○田中 絢子、松本 慶太  
大阪市立総合医療センター

#### 精神療法・心理療法など

- P-52 病棟で行うグループアートサイコセラピー –サイコダイナミックを学ぶ–  
○森 香保里、中土井 芳弘  
独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター

#### 心理社会的援助・家族支援

- P-53 臨時休校措置による家庭生活への影響：外来受診患者のアンケートから  
渡部 泰弘  
秋田県立医療療育センター 小児科
- P-54 児童精神科を初めて受診する中学生を対象とした病名・病状告知と治療の自己決定に関する意識調査  
○庄 紀子<sup>1,2</sup>、押淵 英弘<sup>1</sup>、鈴木 悠<sup>1</sup>、廣内 千晶<sup>1</sup>、豊原 公司<sup>1</sup>、南 達哉<sup>1</sup>、新井 卓<sup>1</sup>  
1. 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 児童思春期精神科、  
2. 地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター 倫理コンサルテーションチーム
- P-55 22q11.2 欠失症候群児童の発達・行動特性ベースライン調査に基づく検討–  
○山内 彩<sup>1,2</sup>、岡田 俊<sup>2</sup>、尾崎 紀夫<sup>2</sup>  
1. 名古屋大学医学部附属病院 医療技術部 特殊技術部門、  
2. 名古屋大学大学院医学系研究科 精神医学・親と子どもの心療学分野
- P-56 大舎と小舎の両方を経験した職員へのヒアリング調査  
○早川 洋<sup>1</sup>、高田 治<sup>2</sup>、益田 啓裕<sup>3,4</sup>  
1. こどもの心のケアハウス 嵐山学園、2. 川崎こども心理ケアセンター かなで、  
3. あゆみの丘、4. 追手門学院大学

- P-57 休校時にオンラインを用いた小学生のグループ支援の検討－「オンライン朝の会」の試み－  
○山下 雅子<sup>1</sup>、中山 政弘<sup>2</sup>  
1. おおほり心療クリニック /NPO ふくおか子どものこころサポート研究所、  
2. 佐賀女子短期大学 /NPO ふくおか子どものこころサポート研究所
- P-58 発達支援施設通所児の親に対する鳥取大学方式ペアレントトレーニングの効果  
－1年後の効果維持の検討－  
○井田 美沙子<sup>1</sup>、榎本 大貴<sup>1</sup>、井上 雅彦<sup>2</sup>  
1. (株) LITALICO、2. 鳥取大学医学部医学系研究科臨床心理学講座
- P-59 実施者養成研修参加者が初めて実施するペアレントトレーニング  
○縄岡 咲子<sup>1</sup>、野口 晃菜<sup>1</sup>、井田 美沙子、井上 雅彦<sup>2</sup>  
1. 株式会社 LITALICO、2. 鳥取大学医学系研究科
- P-60 発達障害児に対する学齢期支援についての一考察～本人、保護者の「困り感」から～  
○木田 裕子、仲谷 早恵、小寺澤 敬子  
姫路市総合福祉通園センター

### 学校精神保健

- P-61 ブリーフ Social Skills Education で行った「自分のいいところ探し」のアンケート分析  
－教師が実施しやすいソーシャルスキル教育の開発に向けて  
○伊藤 弥生<sup>1</sup>、山口 祐子<sup>2</sup>、久木山 健一<sup>3</sup>  
1. 九州産業大学人間科学部、2. 帝塚山大学心理学部、3. 九州産業大学国際文化学部
- P-62 本邦での新型コロナウイルス感染拡大防止の為に長期間自粛が各世代の子どもに及ぼす影響の比較  
検討  
○仲地 究<sup>1・2</sup>、河邊 憲太郎<sup>1・2</sup>、細川 里瑛<sup>1・2</sup>、芳野 歩美<sup>1・2</sup>、根岸 彩花<sup>1・2</sup>、松本 優<sup>1・2</sup>、  
三好 幸代<sup>1・2</sup>、石田 愛<sup>1・2</sup>、服鳥 秀幸<sup>1・2</sup>、見山 朋恵<sup>2・3</sup>、堀内 史枝<sup>1・2</sup>  
1. 愛媛大学医学部附属病院 愛媛大学大学院医学系研究科 精神神経科学、  
2. 愛媛大学医学部附属病院 子どものこころセンター、3. 創精会 松山記念病院
- P-63 就学先決定制度改正の影響について  
久野 建夫  
周継会教育学・発達医学研究所

### 地域連携

- P-64 高知県の子どもの心の診療体制整備について  
○小松 静香<sup>1・3</sup>、吉本 康高<sup>2</sup>、大原 伸騎<sup>2</sup>、高橋 秀俊<sup>1・3</sup>  
1. 高知大学医学部 神経精神科学教室、2. 高知医療センター、  
3. 高知大学医学部 寄附講座 児童青年期精神医学講座
- ~~P-65~~ TAIYO Project－小児科・精神科・児童精神科の地域医療連携推進計画－  
**O-74**  
**に変更** ○佐々木 剛<sup>1</sup>、橘 真澄<sup>1</sup>、高橋 純平<sup>1・2</sup>、久能 勝<sup>2</sup>、倉田 勉<sup>1・3</sup>、志津 雄一郎<sup>4</sup>、石川 真紀<sup>5</sup>、  
細田 豊<sup>6</sup>、中里 道子<sup>6</sup>、磯野 友厚<sup>7</sup>、青木 勉<sup>7</sup>、安藤 咲穂<sup>8</sup>、篠田 直之<sup>9</sup>  
1. 千葉大学医学部附属病院 こどものこころ診療部、  
2. 千葉大学 こどものこころの発達教育研究センター、3. 袖ヶ浦さつき台病院 精神科、  
4. 医療法人双和会 志津クリニック、5. 千葉県精神保健福祉センター、  
6. 国際医療福祉大学成田病院 精神科、7. 総合病院国保旭中央病院 神経精神科、  
8. 千葉県こども病院 精神科、9. 千葉市立青葉病院 児童精神科

**P-66 当科の「こころと発達子ども相談外来」における初診時の訴えとその後の経緯の検討**

○前田 真治<sup>1</sup>、日衛嶋 郁子<sup>1</sup>、中島 陽大<sup>2</sup>

1. 洛和会音羽病院 小児科、
2. 洛和会音羽病院 臨床心理室

**P-67 5歳児発達健診でのwebスクリーニングシステムの活用**

○照井 藍<sup>1</sup>、齊藤 まなぶ<sup>1</sup>、田中 勝則<sup>4</sup>、大里 絢子<sup>1</sup>、足立 匡基<sup>2</sup>、坂本 由唯<sup>1</sup>、三上 珠希<sup>1</sup>、栗林 理人<sup>3</sup>、中村 和彦<sup>1</sup>

1. 弘前大学大学院医学研究科 神経精神医学講座、
2. 弘前大学大学院医学研究科子どものこころの発達研究センター、
3. 弘前大学大学院保健学研究科、
4. 北海学園大学

**乳幼児**

**P-68 3歳児健診における簡便かつ鋭敏な神経発達症のスクリーニング法の探索**

○大里 絢子<sup>1</sup>、齊藤 まなぶ<sup>1</sup>、坂本 由唯<sup>1</sup>、三上 珠希<sup>2</sup>、足立 匡基<sup>2</sup>、中村 和彦<sup>1・2</sup>

1. 弘前大学大学院医学研究科 精神神経医学講座、
2. 弘前大学大学院医学研究科付属子どものこころの発達研究センター

**生物学的アプローチ**

**P-69 視線追跡装置 (Gazefinder) を用いた5歳児のASDスクリーニングアルゴリズムの開発**

○齊藤 まなぶ<sup>1</sup>、坂本 由唯<sup>1</sup>、吉田 和貴<sup>1</sup>、三上 珠希<sup>2</sup>、大里 絢子<sup>1</sup>、照井 藍<sup>1</sup>、中村 和彦<sup>1・2</sup>

1. 弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座、
2. 弘前大学医学部附属子どものこころの発達研究センター

**不登校・ひきこもり**

**P-70 美作市におけるひきこもり等社会的機能低下者の発見**

－「生活と健康に関する調査（一次調査）」及び二次調査（在宅保健師による訪問調査）の結果から－

○目良 宣子<sup>1</sup>、本山 美久仁<sup>2</sup>、山田 恒<sup>2</sup>

1. 山陽学園大学看護学部公衆衛生看護学領域、
2. 兵庫医科大学精神科神経科学講座

**P-71 発達障害特性を背景とするひきこもり状態にある人の支援に関する実態調査**

－支援機関へのアンケート調査による検討－

○平生 尚之<sup>1</sup>、井澤 信三<sup>2</sup>

1. ひょうご発達障害者支援センター クローバー 加西ランチ、
2. 兵庫教育大学大学院

**P-72 単科精神科病院における不登校児を対象としたesports大会の実施と子ども達への影響**

○曾我 純也<sup>1・2</sup>、出山 義洋<sup>2</sup>、河邊 憲太郎<sup>1・3</sup>

1. 一般財団法人創精会 松山記念病院、
2. 公益財団法人 正光会今治病院、
3. 愛媛大学医学部付属病院

**P-73 ゲーム障害の子どもに対する外来集団プログラムの開発**

○花房 昌美、宮川 広実、荒木 陽子

大阪精神医療センター

**その他**

**P-74 児童思春期精神科外来における睡眠障害に対する酸棗仁湯の効果検討**

○家入 彩嘉<sup>1</sup>、富永 卓男<sup>1</sup>、藤本 あみか<sup>1・2</sup>

1. 東京都立小児総合医療センター 児童・思春期精神科、
2. 医療法人社団仁風会 青葉クリニック



- P-75 思春期主体価値と成人期の首尾一貫感覚：思い出し法による横断研究  
安間 尚徳  
東京大学大学院医学系研究科 精神保健学教室
- P-76 読字障害児における、視覚情報処理、音韻処理、小脳機能の傾向について  
○奥津 光佳<sup>1・3</sup>、高畑 脩平<sup>1・2</sup>、井川 典克<sup>1・3</sup>  
1. 特定非営利活動法人はびりす、2. 藍野大学、3. いかわクリニック
- P-77 ロールシャッハ・テストの特殊指標による青年期の自殺の可能性についての検討  
○岸本 直子<sup>1</sup>、山室 和彦<sup>1</sup>、浦谷 光裕<sup>1</sup>、太田 豊作<sup>1</sup>、飯田 順三<sup>2</sup>、岸本 年史<sup>1</sup>  
1. 奈良県立医科大学精神医学講座、2. 奈良県立医科大学看護学科人間発達学

### O-22 から変更

- P-78 社会的不適応が部分的な改善に留まっている成人期の自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害の合併例について  
○板垣 俊太郎<sup>1・2</sup>、佐藤 亜希子<sup>1</sup>、和田 知紘<sup>1</sup>、照井 稔宏<sup>1</sup>、横倉 俊也<sup>1</sup>、伊瀬 陽子<sup>1・3</sup>、松本 貴智<sup>1・2</sup>、増子 博文<sup>1・3</sup>、矢部 博興<sup>1</sup>  
1. 福島県立医科大学 神経精神医学講座、2. 福島県立医科大学 事務局大学健康管理センター、3. 福島県発達障がい者支援センター

# 子ども虐待とトラウマケア

再トラウマ化を防ぐトラウマインフォームドケア

亀岡智美 著

本書は長年、精神科臨床に携わってきた著者によって、子ども虐待とトラウマケアに必要なさまざまな視点や対処法が示されており、医療・保健・福祉・教育・司法といったあらゆる支援現場の方にとって指針となる必携の書である。

A5判 上製 232頁 本体3,400円+税



# 改訂増補 精神科臨床における心理アセスメント入門

津川律子 著

雑誌連載時から好評を博し、単行本化された心理アセスメントの名著、待望の改訂増補版登場。特別対談「アセスメントからケース・フォーミュレーションへ」を新たに収録、データも最新のものを加えた心理アセスメントの必携書。

四六判 並製 290頁 本体2,800円+税



## 子どものための認知行動療法ワークブック

P・スタラード 著/松丸未来, 下山晴彦 監訳 子どもでも理解できるよう平易に解説。概説からワークシートを使って段階的にCBTを習得できる。

B5判 並製 288頁 本体2,800円+税

## 若者のための認知行動療法ワークブック

P・スタラード 著/松丸未来, 下山晴彦 監訳 中学生以上を対象に各ワークをより詳しく解説。CBTの考え方を自分のものにできる。

B5判 並製 256頁 本体2,800円+税

## トラウマにふれる

宮地尚子 著 薬物依存、摂食障害、解離性障害、女性への性暴力、男児への性虐待の臨床現場でトラウマと向き合う精神科医の、思索の軌跡と実践の道標。

四六判 上製 320頁 本体3,400円+税

## 万引きがやめられない

吉田精次 著 クレプトマニア(窃盗症)の臨床像と具体的な治療方法について解説した我が国初の本格的な臨床指導書でありセルフヘルプガイド。

A5判 並製 190頁 本体2,600円+税

## 臨床心理学

Vol.20 No.4 特集 カウンセラーの「問う力・聴く力」

増刊第11号 当事者研究をはじめよう

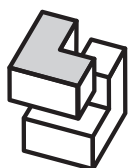
臨床心理学の今を伝える専門誌 B5判160頁/年6回(隔月奇数月)発行/本体1,600円(増刊2,400円)+税/年間購読料12,000円+税(増刊含む,送料小社負担)

## 精神療法

Vol.46 No.3 特集 アサーション・トレーニングと心身の健康

増刊第7号 疾患・領域別最新認知行動療法活用術

わが国唯一の総合的精神療法研究誌 B5判130頁/年6回(隔月偶数月)発行/本体2,000円(増刊2,800円)+税/年間購読料14,800円+税(増刊含む,送料小社負担)



選択的セロトニン再取り込み阻害剤(SSRI) 【薬価基準収載】  
日本薬局方 フルボキサミンマレイン酸塩錠

**ルボックス錠** <sup>®</sup> 25  
50  
75

〈フルボキサミンマレイン酸塩錠〉

処方箋医薬品  
(注意—医師等の処方箋により使用すること)

Luvox<sup>®</sup>

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元

**アッヴィ合同会社**  
東京都港区芝浦 3-1-21

[資料請求先]  
くすり相談室  
フリーダイヤル 0120-587-874

2019年3月作成  
JP-LUVO-180034-1.0

abbvie

# Challenge × New = Satisfaction

## 大日本住友製薬のCNS

うつ病や統合失調症、認知症やパーキンソン病など、  
中枢神経系(CNS)領域の疾患に罹患している  
患者さんは多くいらっしゃいます。

これらの疾患は発症原因について  
解明しなければならない部分も多く、  
そのことが新薬研究開発の難しさに直結しています。

私たち大日本住友製薬は、  
患者さんの治療満足度の向上を目指し、  
さらなる挑戦を続けます。

次につながる新しい何かを求めて。





選択的セロトニン再取り込み阻害剤 (SSRI) 薬価基準収載  
劇薬、処方箋医薬品<sup>注</sup>



**レクサプロ錠** 10mg 20mg

**LEXAPRO® Tablets 10mg・20mg** エスシタロプラムシロウ酸塩

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む使用上の注意」等の詳細は添付文書をご参照ください。



製造販売元<文献請求先及び問い合わせ先>  
**持田製薬株式会社**  
東京都新宿区四谷1丁目7番地  
TEL: 0120-193-522 (くすり相談窓口)



販売(文献請求先及び問い合わせ先)  
**田辺三菱製薬株式会社**  
大阪府中央区道修町3-2-10  
製品情報に関するお問い合わせ  
TEL: 0120-753-280 (くすり相談センター)  
販売情報提供活動に関するご意見  
TEL: 0120-268-571



プロモーション提携  
**吉富薬品株式会社**  
大阪府中央区道修町3-2-10

提携

**Lundbeck**  
デンマーク



# 東和薬品は、ジェネリックに **+α** の価値を。

## **+α** 飲みやすい

独自の「RACTAB技術」で、水なしでも口の中で  
さっと溶ける飲みやすさと、扱いやすい硬さを  
両立したOD錠（口腔内崩壊錠）をつくっています。



OD錠



普通錠

## ここが **+α** !



工夫がいっぱい!

## **+α** ニガくない

「マスキング技術」でニガみをコーティングし、  
お薬が苦手な方やお子さまにも飲みやすく。  
さらに、お薬と飲食物との飲み合わせも研究しています。



## **+α** 見分けやすい

お薬の名前を印刷して、分割しても何のお薬か  
見分けやすい錠剤や、飲み間違いを防ぐパッケージなど、  
お薬のデザインにこだわっています。



胃酸を  
抑える  
お薬

薬効マーク

## **+α** 原薬からのこだわり

お薬の効き目のもととなる原薬からこだわり、  
高い品質で、さまざまな製剤工夫をした製品を安定的に  
お届けするための取り組みを行っています。



## **+α** 高い品質

光・熱・湿気による影響を抑えてお薬の品質を  
保持する製剤技術など、  
製品品質を高めるための研究を行っています。



「せつかく後から出すのだから、もっといいお薬を目指したい。」

東和薬品は、その思いを大切に、  
ジェネリック医薬品と向き合っています。

たとえば、どんなに効くお薬があっても、  
患者さんがきちんと服用できなければ、その効果は発揮できません。  
また、お医者さんや薬剤師さんが、医療現場で安心・安全に  
取り扱えるお薬でなければならないと考えています。

東和薬品のジェネリック医薬品は、  
新薬と同じ効き目であることはもちろん、  
飲みやすさや見分けやすさ、品質にいたるまで、  
お薬に“+α”の価値を追求しています。  
お薬に関わるすべての方に  
“もっとやさしく、もっと思いやりのあるお薬”をお届けするために、  
最先端の技術や独自の視点で研究や開発に取り組んでいます。



お医者さんや薬剤師さんに相談してみませんか。あなたに合ったお薬のこと。

くすりのあしたを考える。



東和薬品



## Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。  
より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに  
過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の  
創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに  
歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から  
支援活動にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。  
その一つひとつに答えていくことが、私たちの新たな使命。  
よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早く  
お届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の  
未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社  
[www.takeda.com/jp](http://www.takeda.com/jp)





 大日本住友製薬



セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤 (SNRI) 薬価基準収載

 **イフェクサー<sup>®</sup>SR** カプセル **37.5 mg・75 mg**

**EFFEXOR SR** CAPSULES

ベンラファキシン塩酸塩徐放性カプセル 劇薬 処方箋医薬品

注意—医師等の処方箋により使用すること

●効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元  
**ファイザー株式会社**  
〒151-8589 東京都渋谷区代々木3-22-7  
文献請求先及び問い合わせ先：製品情報センター

プロモーション提携  
**大日本住友製薬株式会社**  
〒541-0045 大阪市中央区道修町 2-6-8  
文献請求先及び問い合わせ先：くすり情報センター

EFX72F022F  
P03986v02

2019年10月作成





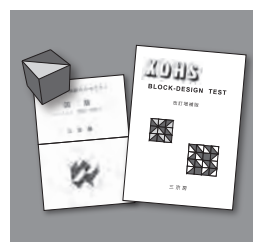
**AQ 日本語版**  
自閉症スペクトラム指数



**DSRS-C** パールソン  
児童用抑うつ性尺度



**SCAS** スペンス  
児童用不安尺度



**コース立方体**  
組み合わせテスト



**BAQ** 日本版 Buss-  
Perry 攻撃性質問紙



**DAM** グッドイナフ  
人物画知能検査



**CMAS** 児童用不安尺度



**Kokolog** ころろぐ  
Web 心理検査サービス

**【近刊】P-F スタディ™**  
絵画欲求不満テスト

2020年10月 成人用第Ⅲ版・新解説書 新発売予定  
青年用・児童用第Ⅲ版 リニューアル発売予定



©株式会社三京房



**成人用第Ⅲ版**

- ◇原図版と以前の日本版を参考にしながら、全的に図版が描き直され、人物構成の男女比率も等しくなるように変更されています。
- ◇一般社会人と大学生、合計 1704 名の回答結果に基づいて、標準化が行われました。3つの年齢段階（成人前期・成人中期・成人後期）と大学生に分けてデータ算出されています。
- ◇用紙サイズを A4 版に拡大し、質疑応答を記録しやすくしました。整理票も大きく見直し、スムーズに採点集計できるよう工夫しました。

**P-F スタディ解説 2020年版**

サイズが従来の A5 版から B5 版に拡大されました。3つの年齢版で共通の教示になるよう変更され、また各年齢版を通して共通の原理にしたがってスコアリングできるよう全面的に見直されています。



**Kokolog / ころろぐ Web アプリによる専門家向け心理検査サービス**

ベントン視覚記録検査採点 web サービス（詳細版・簡易版）

STAI 状態・特性不安検査 web サービス

【公開予定】P-F スタディ採点 web サービス

専用ページ：<https://kokolog.info>

PROGRESS  
IN MIND

## 精神・神経疾患をもつ人々のために

人が未来への希望や夢を持つことは、生きていく上でとても大切。  
けれど今日を乗りきることに精一杯の人たちもいます。  
私たちは、そんな苦しむ患者さんの1秒、1分、1日を支えたい。

「プログレス・イン・マインド」の理念を持って、患者さんとそのご家族の  
より良い生活のために寄り添って前進し続けるルンドベック。

今日を明日へつなぐために、70年以上にわたり  
精神・神経領域で革新的な治療薬の開発に情熱を注いでいます。

これからも、少しずつ重ねる歩みの先の、未来を目指して。

### ルンドベック・ジャパン株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門五丁目1番4号 東都ビル7階

Lwj-A5-201908



## 命を明日につなぐ。希望は世界中にある。

課題と国境を越えて、人々の明日をひらく製薬会社、ヤンセンファーマ。

世界のすべてが、私たちの研究室。  
病と懸命に闘う患者さんのために、最高の科学と、独創的な知性、  
世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。

すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑戦していく。  
新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。

革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちを待つ人がいる限り。

誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。  
そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社 [www.janssen.com/japan](http://www.janssen.com/japan)

janssen  
PHARMACEUTICAL COMPANIES  
OF Johnson & Johnson



## 漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、  
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした  
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。  
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

### 自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



[www.tsumura.co.jp](http://www.tsumura.co.jp)

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】0120-329-970 【患者様・一般のお客様】0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

## 医療法人山西会 三田西病院

兵庫県三田市東本庄2017番地

TEL : 079-568-0025



**INVENTING FOR LIFE**

人々の生命を救い  
人生を健やかにするために、挑みつづける。

最先端の医薬品の創造。それは長く険しい道のりです。  
懸命な研究開発の99%以上は実を結ばない現実。  
でも、決してあきらめない。  
あなたや、あなたの大切な人の「いのち」のために、  
革新的な新薬とワクチンの発見、開発、提供を  
私たちは続けていきます。

**MSD製薬**  
INVENTING FOR LIFE

MSD株式会社 [www.msd.co.jp](http://www.msd.co.jp) 東京都千代田区千代田北1-13-12北の丸スクエア

**Eisai**

*hvc*  
human health care

患者様の想いを見つめて、  
薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。  
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。  
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、  
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合いたいと思います。  
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。  
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。  
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。


ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

**AFUTURE RE OF LF**  
Global

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

KAITEKI Value for Tomorrow  
三菱ケミカルホールディングスグループ

精神科医療の  
真のパートナーを  
目指して

 田辺三菱製薬グループ



吉富薬品株式会社  
大阪市中央区道修町3-2-10  
<http://www.yoshitomi.jp/>

# 謝 辞

兵庫県

神戸大学大学院医学研究科精神医学分野  
一般社団法人 兵庫県精神神経科診療所協会

神戸市

一般社団法人 兵庫県精神科病院協会  
兵庫県臨床心理士会

東こどもの心とからだのクリニック

医療福祉センターきずな

MSD株式会社

黒川メンタルクリニック

株式会社三京房

島田クリニック

大日本住友製薬株式会社

医療法人達磨会 東加古川病院

株式会社ツムラ

株式会社日本文化科学社

ファイザー株式会社

ふじわら心のクリニック

持田製薬株式会社

ヤンセンファーマ株式会社

ルンドベック・ジャパン株式会社

アッヴィ合同会社

エーザイ株式会社

大塚製薬株式会社

株式会社金剛出版

塩野義製薬株式会社

医療法人社団 小児科神沢クリニック

武田薬品工業株式会社

田中神経科クリニック

東和薬品株式会社

ノーベルファーマ株式会社

医療法人社団 福島神経科クリニック

ぽかぽかこころクリニック

医療法人山西会 三田西病院

吉富薬品株式会社

五十音順

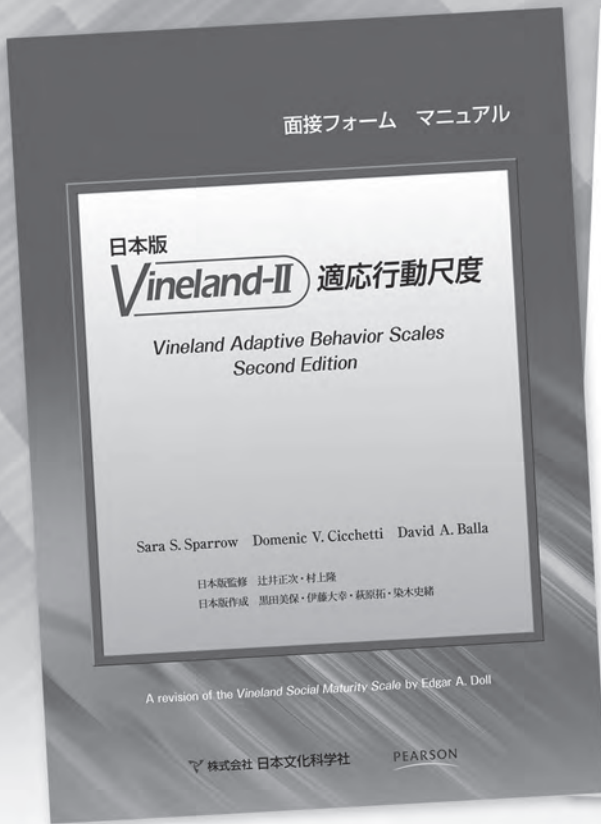
2020年8月31日現在

第61回日本児童青年精神医学会総会の開催にあたり、上記の皆様からのご支援を賜りました。

ここに謹んで御礼申し上げます。

第61回日本児童青年精神医学会総会

会長 田中 究



日本版

# Vineland™-II 適応行動尺度

Vineland Adaptive Behavior Scales, Second Edition (ヴァインランド・ツー)

医療診療報酬点数 280点

- 対象者の日常生活における適応機能の評価する場合に活用でき、適応行動の個人間差と個人内差を調べることができます。
- 検査者は、対象者の様子をよく知っている回答者（保護者や介護者など）に半構造化面接を行います。
- 0歳から92歳の幅広い年齢に活用でき、知的障害、発達障害、精神障害に加え、老年期の能力低下の評価にも対応できます。

価格

マニュアル 15,000円（税抜き）  
記録用紙セット 10,000円（税抜き）

原著者 Sara S. Sparrow, Domenic V. Cicchetti, David A. Balla  
原出版社 Pearson  
日本版監修 辻井正次・村上隆  
日本版作成 黒田美保・伊藤大幸・萩原拓・染木史緒

適用範囲 0歳0カ月～92歳11カ月  
実施時間 20分～60分  
医療診療報酬点数 280点（根拠D283-2）

株式会社 日本文化科学社

